

2019/06/12(水)11:41

授業科目名	キャリアデベロップメント		
担当教員氏名	原田 淳		
研究室の場所	広島キャンパス キャリアセンター		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー			
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業。講義形式による解説を行い、必要に応じて適宜、演習を実施する。		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	全学科1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	キャリア開発, 能力開発, 目標設定, 情報収集, コミュニケーションスキル, 対人関係スキル, 課題発見力, 問題解決力		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>本科目は、全学共通教育科目の「キャリア科目」の中で、最初に学ぶ科目として位置づけられている。大学生活を充実させ、社会で活躍するためには、自立的・主体的に考え行動し、問題や課題に直面したときに自分で対処し解決する力が必要となる。それには、目標設定、情報収集、効果的なコミュニケーション、対人関係スキル、課題発見力、問題解決力、意思決定などの能力が含まれる。これらの能力は、在学中だけでなく、社会に出てからも継続的に高めていくことが重要である。本講義の目的は、受講者がこれらの能力の重要性について認識し、必要なスキルや有用な手法について理解し、能力を高める方法を知ることである。受講者が理解を深めるための演習を適宜実施し、その過程で受講者自身が自己についての理解を深めることが可能である。</p>		
授業の内容	1)社会で活躍するために必要な能力, 2)セルフイメージと目標設定, 3)情報収集と要約のスキル, 4)コミュニケーションと対人関係のスキル, 5)論理的に説明するスキル, 6)問題解決の技法		
成績評価の方法	講義中の演習50%, レポート課題20%, 期末レポート30%で評価する		
テキスト	講義資料はUNIVERSAL PASSPORTにアップロードするので、必要に応じてダウンロードする。		
参考文献			
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	【実務経験を活かした実践的な教育について】 電機メーカーで勤務経験のある教員が、その経験を活かして、社会や職場で必要となるコミュニケーションスキル等の基礎力について解説する。		

授業計画		準備学習
第1回	オリエンテーション ・講義の目的と内容 ・受講のルール	
第2回	社会や職場で必要となる能力(1) ・社会人基礎力の能力要素	
第3回	社会や職場で必要となる能力(2) ・あいさつ ・能力開発の取り組み	
第4回	問題解決のアプローチ(1) ・分析的アプローチ	
第5回	問題解決のアプローチ(2) ・解決志向のアプローチ	
第6回	目標設定のスキル ・SMART ・目標達成シート	
第7回	コミュニケーションスキル(1) ・直接発話と間接発話 ・準言語的要素と非言語的要素	
第8回	コミュニケーションスキル(2) ・演習(非言語的要素の意識)	
第9回	コミュニケーションスキル(3) ・傾聴とは	
	コミュニケーションスキル(4)	

第10回	・質問の技法	
第11回	企業人の講話(1) ・企業が求める人材とは	
第12回	企業人の講話(2) ・企業が求める人材とは	
第13回	論理的に説明するスキル ・論証の方法 ・主張と根拠	
第14回	論理的な問題解決 ・実際のケースから学ぶ	
第15回	まとめ ・講義の振り返り ・レポート提出 ・授業評価アンケート	
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2019/06/12(水)11:41

授業科目名	キャリアデベロップメント		
担当教員氏名	原田 淳		
研究室の場所	広島キャンパス キャリアセンター		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー			
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業. 講義形式による解説を行い, 必要に応じて適宜, 演習を実施する.		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	全学科1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	キャリア開発, 能力開発, 目標設定, 情報収集, コミュニケーションスキル, 対人関係スキル, 課題発見力, 問題解決力		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>本科目は、全学共通教育科目の「キャリア科目」の中で、最初に学ぶ科目として位置づけられている。大学生活を充実させ、社会で活躍するためには、自立的・主体的に考え行動し、問題や課題に直面したときに自分で対処し解決する力が必要となる。それには、目標設定、情報収集、効果的なコミュニケーション、対人関係スキル、課題発見力、問題解決力、意思決定などの能力が含まれる。これらの能力は、在学中だけでなく、社会に出てからも継続的に高めていくことが重要である。本講義の目的は、受講者がこれらの能力の重要性について認識し、必要なスキルや有用な手法について理解し、能力を高める方法を知ることである。受講者が理解を深めるための演習を適宜実施し、その過程で受講者自身が自己についての理解を深めることが可能である。</p>		
授業の内容	1)社会で活躍するために必要な能力, 2)セルフイメージと目標設定, 3)情報収集と要約のスキル, 4)コミュニケーションと対人関係のスキル, 5)論理的に説明するスキル, 6)問題解決の技法		
成績評価の方法	講義中の演習50%, レポート課題20%, 期末レポート30%で評価する		
テキスト	講義資料はUNIVERSAL PASSPORTIにアップロードするので、必要に応じてダウンロードする。		
参考文献			
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	【実務経験を活かした実践的な教育について】 電機メーカーで勤務経験のある教員が、その経験を活かして、社会や職場で必要となるコミュニケーションスキル等の基礎力について解説する。		

授業計画	準備学習
第1回	オリエンテーション ・講義の目的と内容 ・受講のルール
第2回	社会や職場で必要となる能力(1) ・社会人基礎力の能力要素
第3回	社会や職場で必要となる能力(2) ・あいさつ ・能力開発の取り組み
第4回	問題解決のアプローチ(1) ・分析的アプローチ
第5回	問題解決のアプローチ(2) ・解決志向のアプローチ
第6回	目標設定のスキル ・SMART ・目標達成シート
第7回	コミュニケーションスキル(1) ・直接発話と間接発話 ・準言語的要素と非言語的要素
第8回	コミュニケーションスキル(2) ・演習(非言語的要素の意識)
第9回	コミュニケーションスキル(3) ・傾聴とは
	コミュニケーションスキル(4)

第10回	・質問の技法	
第11回	医療・保健・福祉分野の事例(1) ・医療・保健・福祉の現場でどのようなコミュニケーションが求められているか事例から学ぶ	
第12回	医療・保健・福祉分野の事例(2) ・医療・保健・福祉の現場でどのようなコミュニケーションが求められているか事例から学ぶ	
第13回	論理的に説明するスキル ・論証の方法 ・主張と根拠	
第14回	論理的問題解決 ・実際のケースから学ぶ	
第15回	まとめ ・講義の振り返り ・レポート提出 ・授業評価アンケート	
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2019/06/12(水)11:41

授業科目名	キャリアデベロップメント		
担当教員氏名	原田 淳		
研究室の場所	広島キャンパス キャリアセンター		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー			
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業。講義形式による解説を行い、必要に応じて適宜、演習を実施する。		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	全学科1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	キャリア開発, 能力開発, 目標設定, 情報収集, コミュニケーションスキル, 対人関係スキル, 課題発見力, 問題解決力		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>本科目は、全学共通教育科目の「キャリア科目」の中で、最初に学ぶ科目として位置づけられている。大学生活を充実させ、社会で活躍するためには、自立的・主体的に考え行動し、問題や課題に直面したときに自分で対処し解決する力が必要となる。それには、目標設定、情報収集、効果的なコミュニケーション、対人関係スキル、課題発見力、問題解決力、意思決定などの能力が含まれる。これらの能力は、在学中だけでなく、社会に出てからも継続的に高めていくことが重要である。本講義の目的は、受講者がこれらの能力の重要性について認識し、必要なスキルや有用な手法について理解し、能力を高める方法を知ることである。受講者が理解を深めるための演習を適宜実施し、その過程で受講者自身が自己についての理解を深めることが可能である。</p>		
授業の内容	1)社会で活躍するために必要な能力, 2)セルフイメージと目標設定, 3)情報収集と要約のスキル, 4)コミュニケーションと対人関係のスキル, 5)論理的に説明するスキル, 6)問題解決の技法		
成績評価の方法	講義中の演習50%, レポート課題20%, 期末レポート30%で評価する		
テキスト	講義資料はUNIVERSAL PASSPORTにアップロードするので、必要に応じてダウンロードする。		
参考文献			
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	【実務経験を活かした実践的な教育について】 電機メーカーで勤務経験のある教員が、その経験を活かして、社会や職場で必要となるコミュニケーションスキル等の基礎力について解説する。		

授業計画	準備学習
第1回	オリエンテーション ・講義の目的と内容 ・受講のルール
第2回	社会や職場で必要となる能力(1) ・社会人基礎力の能力要素
第3回	社会や職場で必要となる能力(2) ・あいさつ ・能力開発の取り組み
第4回	問題解決のアプローチ(1) ・分析的アプローチ
第5回	問題解決のアプローチ(2) ・解決志向のアプローチ
第6回	目標設定のスキル ・SMART ・目標達成シート
第7回	コミュニケーションスキル(1) ・直接発話と間接発話 ・準言語的要素と非言語的要素
第8回	コミュニケーションスキル(2) ・演習(非言語的要素の意識)
第9回	コミュニケーションスキル(3) ・傾聴とは
	コミュニケーションスキル(4)

第10回	・質問の技法	
第11回	企業人の講話(1) ・企業が求める人材とは	
第12回	企業人の講話(2) ・企業が求める人材とは	
第13回	論理的に説明するスキル ・論証の方法 ・主張と根拠	
第14回	論理的問題解決 ・実際のケースから学ぶ	
第15回	まとめ ・講義の振り返り ・レポート提出 ・授業評価アンケート	
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	キャリアビジョン		
担当教員氏名	原田 淳, 魚谷 滋己		
研究室の場所	広島キャンパス キャリアセンター		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスパワー			
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面形式。授業は配布資料にしたがって進める講義形式と、学生による演習・発表形式を併用して実施する。		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	全学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	キャリア開発, 論理的思考, チームワーク, プレゼンテーション		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目では、自分自身のキャリアを形成してゆく見識を身につけると同時に、社会で必要とされる論理的思考力、プレゼンテーション力を身につけることを目標とする。		
授業の内容	「グローバルビジネスと商品企画」をテーマに、グループによる商品企画に取り組む。グループで企画した内容について中間段階と最終段階のプレゼンテーションも実施する。		
成績評価の方法	講義中の演習50%, レポート課題20%, 期末レポート30%で評価する。		
テキスト	「グローバルビジネスと商品企画」のテキストを配布する。		
参考文献	参考文献は適宜紹介する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	「グローバルビジネスと商品企画」のテキストを予習し、担当したい地域(アメリカ, ヨーロッパ, 中国のいずれか)を決め、質問を一つ考えておくこと。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 グローバル市場における商品企画の経験を有する教員が、10年後の自動車の商品企画をテーマとして、正解のない課題にチームで取り組む際に必要となるチームビルディングや論理的な思考法について指導する。		

授業計画	準備学習
第1回	オリエンテーション
第2回	グループワークのためのチームビルディング(1)
第3回	グループワークのためのチームビルディング(2)
第4回	グローバルビジネスと商品企画(1) ・概要説明 ・チーム編成
第5回	グローバルビジネスと商品企画(2) ・グローバルビジネスの紹介, 海外主要市場の概要 ・各チームの担当市場決定
第6回	グローバルビジネスと商品企画(3) ・商品企画の基礎 ・アイデア発想の方法(ブレインストーミング, KJ法) ・ターゲットカスタマーとニーズ
第7回	グローバルビジネスと商品企画(4) ・シナリオライティング
第8回	グローバルビジネスと商品企画(5) ・コンセプトシナリオ作成(グループワーク) ・シナリオの論理性検証
第9回	グローバルビジネスと商品企画(6) ・コンセプトシナリオ作成(グループワーク) ・シナリオの論理性検証 ・中間発表用シナリオ案作成
第10回	グローバルビジネスと商品企画(7) ・プレゼンテーションの基本 ・中間発表(各チームのコンセプトシナリオ発表)
第11回	グローバルビジネスと商品企画(8) ・ガントチャートを用いた計画立案 ・プレゼンテーション資料修正

県立広島大学ポータルサイト

第12回	グローバルビジネスと商品企画(9) ・最終プレゼンテーションの準備 ・プレゼンテーション資料修正 ・プレゼンテーション原稿修正 ・想定質問への回答準備	
第13回	グローバルビジネスと商品企画(10) ・最終プレゼンテーション ・質疑応答	
第14回	グローバルビジネスと商品企画(11) ・最終プレゼンテーション ・質疑応答	
第15回	グローバルビジネスと商品企画(12) ・評価, 最優秀チームの選出と表彰 ・講評 ・まとめ	
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	キャリアビジョン		
担当教員氏名	原田 淳, 魚谷 滋己		
研究室の場所	広島キャンパス キャリアセンター		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー			
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面形式。授業は配布資料にしたがって進める講義形式と、学生による演習・発表形式を併用して実施する。		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	生命科学科 環境科学科 2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	キャリア開発, 論理的思考, チームワーク, プレゼンテーション		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目では、自分自身のキャリアを形成してゆく見識を身につけると同時に、社会で必要とされる論理的思考力、プレゼンテーション力を身につけることを目標とする。		
授業の内容	「グローバルビジネスと商品企画」をテーマに、グループによる商品企画に取り組む。グループで企画した内容について中間段階と最終段階のプレゼンテーションも実施する。		
成績評価の方法	講義中の演習50%, レポート課題20%, 期末レポート30%で評価する。		
テキスト	「グローバルビジネスと商品企画」のテキストを配布する。		
参考文献	参考文献は適宜紹介する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	「グローバルビジネスと商品企画」のテキストを予習し、担当したい地域(アメリカ, ヨーロッパ, 中国のいずれか)を決め、質問を一つ考えておくこと。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 グローバル市場における商品企画の経験を有する教員が、10年後の自動車の商品企画をテーマとして、正解のない課題にチームで取り組む際に必要となるチームビルディングや論理的な思考法について指導する。		

授業計画	準備学習
第1回	オリエンテーション
第2回	グループワークのためのチームビルディング(1)
第3回	グループワークのためのチームビルディング(2)
第4回	グローバルビジネスと商品企画(1) ・概要説明 ・チーム編成
第5回	グローバルビジネスと商品企画(2) ・グローバルビジネスの紹介, 海外主要市場の概要 ・各チームの担当市場決定
第6回	グローバルビジネスと商品企画(3) ・商品企画の基礎 ・アイデア発想の方法(ブレインストーミング, KJ法) ・ターゲットカスタマーとニーズ
第7回	グローバルビジネスと商品企画(4) ・シナリオライティング
第8回	グローバルビジネスと商品企画(5) ・コンセプトシナリオ作成(グループワーク) ・シナリオの論理性検証
第9回	グローバルビジネスと商品企画(6) ・コンセプトシナリオ作成(グループワーク) ・シナリオの論理性検証 ・中間発表用シナリオ案作成
第10回	グローバルビジネスと商品企画(7) ・プレゼンテーションの基本 ・中間発表(各チームのコンセプトシナリオ発表)
第11回	グローバルビジネスと商品企画(8) ・ガントチャートを用いた計画立案 ・プレゼンテーション資料修正

第12回	グローバルビジネスと商品企画(9) ・最終プレゼンテーションの準備 ・プレゼンテーション資料修正 ・プレゼンテーション原稿修正 ・想定質問への回答準備	
第13回	グローバルビジネスと商品企画(10) ・最終プレゼンテーション ・質疑応答	
第14回	グローバルビジネスと商品企画(11) ・最終プレゼンテーション ・質疑応答	
第15回	グローバルビジネスと商品企画(12) ・評価, 最優秀チームの選出と表彰 ・講評 ・まとめ	
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	キャリアビジョン		
担当教員氏名	原田 淳, 坊岡 峰子, 手島 洋, 吉川 ひろみ, 小澤 由嗣		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	特に時間帯を定めない。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面形式。授業日程に従って、講義形式と演習形式の授業を併用して進める。毎回の授業毎にレポート課題を課す。受講者は、授業への出席、課題の提出が義務付けられる。		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	全学科2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	進路・職業選択, キャリア形成		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目の目標は、自分自身のキャリアを形成してゆく見識と力を身につけると同時に、大学生活で学ぶ専門分野について自らのビジョンを形成することである。その上で、人生、職業、やりがいや生きがいについて考え、労働や雇用・職業の現状についても理解を深める。		
授業の内容	社会の現状を理解し、自らの職業の選択や社会への関わり方など、自己の目指す道を考える。生涯を通してキャリアを形成する力を身につけるため、学内の教員、学外の有識者による講話を数回実施する予定である。加えて、社会でのストレスに対処する方法についても解説し、実践方法を身につけるための演習を実施する。		
成績評価の方法	講義中の演習50%, レポート課題20%, 期末レポート30%で評価する。		
テキスト	テキスト(教科書)は特に指定しない。		
参考文献	参考文献は授業の進行に応じて適宜紹介する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	受講者には、積極的な参加姿勢をもつことを期待する。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 医療・福祉分野やメーカー等で勤務経験のある複数の教員が、その経験を活かして、社会や職場で必要となるコミュニケーションスキル等の基礎力について解説する。		

授業計画	準備学習
第1回 オリエンテーション ・講義の目的 ・講義の概要	
第2回 社会や保健・医療・福祉の現状について ・社会や保健・医療・福祉を取り巻く状況の変化 ・社会や職場で活躍するために必要な力	
第3回 継続的な能力開発について	
第4回 対人支援に必要なコミュニケーションスキル(1)	
第5回 対人支援に必要なコミュニケーションスキル(2)	
第6回 仕事に取り組む姿勢(1) ・著名人の事例から学ぶ	
第7回 仕事に取り組む姿勢(2) ・著名人の事例から学ぶ	
第8回 仕事に取り組む姿勢(3) ・著名人の事例から学ぶ	
第9回 ストレスとストレス・マネジメント(1)	
第10回 ストレスとストレス・マネジメント(2)	
第11回 ストレスとストレスマネジメント(3)	
第12回 仕事に取り組む姿勢(4) ・教員からの講話 ・質疑応答 ・レポート	
第13回 仕事に取り組む姿勢(5) ・教員からの講話 ・質疑応答 ・レポート	

第14回	ヘルスサポーターマインドの理解と実践 ・講義と演習 ・レポート	
第15回	まとめ ・講義の振り返り ・レポート提出 ・授業評価アンケート	
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	インターンシップ		
担当教員氏名	学科教員		
研究室の場所	広島キャンパス		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	随時(アポを取ってください)		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業。事前学習及び事後学習は、授業日程に従って、週1回の授業を、主に講義形式及び演習形式で実施する。実習は原則として夏期休業中に2週間行う。学生は、事前学習、実習、事後学習の欠席・遅刻・早退は認められない。すべての授業への参加と2週間の実習が義務づけられる。		
単位数(時間数)	2.0	60	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	全学科2・3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	自己分析, 進路選択, 就業体験, 職業選択, 職業適性, ビジネスマナー		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目では、将来職業に就くために、職業選択、職業適性について、自分を深く見つめようとする学生を対象にして、就業体験をさせる。本科目の目標は、履修学生に、多様な職場や職業に対する関心を持たせるとともに、それらの職場や職業について体験を通じて深く考えさせることである。これによって、自己の進路について考えるための契機とすることができる。本科目は、全学共通教育科目のキャリア科目の一つとして位置づけられている。		
授業の内容	企業、行政機関、福祉施設、各種団体等において行う就業体験実習を通じて、将来の職業選択に備えて、自らが自己の職業適性や能力等について深く考える契機とする。事前学習では、オリエンテーション、ビジネスマナー講座、自己目標を明確にするグループ別発表・討論を行う。実習は原則として夏期休業期間中の1週間以上とする。事後学習では、就業体験の発表を、グループ別発表・討論として行うとともに、学内外に公開する全体報告会としても実施する。さらに、実習報告書を作成し、提出させる。		
成績評価の方法	事前学習及び事後学習における課題、授業及び実習の出席、実習受入先の評価、実習報告書等を総合して評価する。課題等については第1回の授業において提示する。課題、報告書等の提出物をすべて提出すること、授業及び実習における欠席・遅刻・早退がないこと、受入先の評価が良好であることが単位認定の必要条件である。		
テキスト	a. 教科書 なし		
参考文献	b. 参考文献 第1回の授業において印刷資料として提示する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	履修する学生は、自分自身や自分の進路について深く考えてきた学生であることが望ましい。 履修予定者は、第1回の授業に出席して、ガイダンスの内容を理解した上で、履修するかどうかを決定すること。授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。受講のルールについては、第1回の授業において提示する。正当な理由なく、履修の中途での放棄、事前学習、実習、事後学習での欠席・遅刻・早退は認めない。実習において必要となる費用は、原則として学生の個人負担とする。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 事前研修では、企業等での勤務経験のある外部講師によるビジネスマナー等の指導を行う。 受入先の企業等においては、実践的な研修を行う。		

授業計画	準備学習	
第1回	受講ガイダンス①(授業概要の説明、注意事項の伝達)	これまで学んできたことをふまえて、自分の将来について考えて整理する。
第2回	受講ガイダンス②(企業の選択など) a)前年度履修生報告会 b)企業の選択など	前回の資料を振り返り、インターンシップ先の候補をいくつか決める。
第3回	受講ガイダンス③:外部講師講話(概要)仕事をすると、社会・会社で働く(役割を果たす)とはどういうことかを考え、インターンシップ生として社会に飛び込む“心構え”を持つ。 講師:ジョータツ株式会社 代表取締役社長 竹田和憲	前回の資料を振り返り、インターンシップ先の候補をいくつか決める。
第4回	受講ガイダンス④(一次マッチングにかかる学内申し込み状況の説明と学内調整)	前回の資料を振り返り、インターンシップにおける自己目標などをまとめる。
第5回	プレゼンテーション講座① 講師:公益財団法人マツダ財団 事務局長 魚谷滋己	前回の資料を振り返り、インターンシップ先の企業について調べる。
第6回	プレゼンテーション講座② 講師:公益財団法人マツダ財団 事務局長 魚谷滋己	前回の資料を振り返り、プレゼンテーションの課題に取り組む。
第7回	プレゼンテーション講座③ 講師:公益財団法人マツダ財団 事務局長 魚谷滋己	前回の資料を振り返り、プレゼンテーションの課題に取り組む。

県立広島大学ポータルサイト

第8回	ビジネスマナー講座① 講師:広島秘書学院 学院長 平野敏子	前回の資料を振り返り、プレゼンテーションの課題に取り組む。
第9回	ビジネスマナー講座② 講師:広島秘書学院 学院長 平野敏子	前回の資料を振り返り、ビジネスマナーの課題に取り組む。
第10回	社会人入門講座 講師:県立広島大学 特任教授 山根英幸	前回の資料を振り返り、ビジネスマナーの課題に取り組む。
第11回	ビジネスマナー講座③ 講師:広島秘書学院 学院長 平野敏子	前回の資料を振り返り、社会人としての心構えをまとめる。
第12回	受入先業種別グループ発表会・討論会(概要)事前に受入先の業界や企業の業務内容・課題等を調べ、目的意識を明確にすること。そのうえで、実習にかかる自己目標を設定すること。	前回の資料を振り返り、ビジネスマナーの課題に取り組む。インターンシップ先の企業について研究し、自己目標などをまとめる。
第13回	最終調整と諸注意の伝達(概要)注意事項の伝達, 事故・トラブル等の発生等の対応と連絡体制, 実習要項の最終確認(誓約書の作成, 日報・報告書・礼状の作成, 提出方法等の連絡)	前回の資料を振り返り、インターンシップ先の企業について研究し、自己目標などをまとめる。
第14回	受入先業種別グループ報告会(在学生, 教職員に公開)	受入先業種別グループ報告会に向けた準備を行う。
第15回	合同報告会	合同報告会に向けた準備を行う。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	インターンシップ		
担当教員氏名	学部教員		
研究室の場所			
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー			
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業。通年集中講義。事前学習及び事後学習は、授業日程に従って、主に講義形式及び演習形式で実施する。実習は原則として夏期休業中に行う。学生は、原則として、事前学習、実習、事後学習の欠席・遅刻・早退は認められない。すべての授業への参加と実習が義務づけられる。		
単位数(時間数)	2.0	60	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	生命科学科、環境科学科 2・3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	自己分析、就業体験、職業選択、職業適性、ビジネスマナー		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目では、将来職業に就くために、職業選択、職業適性について、自分を深く見つめようとする学生を対象にして、就業体験をさせる。 本科目の目標は、履修学生に、多様な職場や職業に対して関心を持たせるとともに、それらの職場や職業について体験を通じて深く考えさせることである。これによって、自己の進路について考えるための契機とすることができる。本科目は、全学共通教育科目の一つとして位置づけられている。また、学生の進路選択を支援する大学の学生支援プログラムの一部を担うものである。		
授業の内容	企業、行政機関、福祉施設、各種団体等において行う就業体験実習を通じて、将来の職業選択に備えて、自らが自己の職業適性や能力等について深く考える契機とする。 事前学習では、オリエンテーション、ビジネスマナー講座、自己目標を明確にするグループ別発表・討論等を行う。実習は原則として夏期休業期間中の2週間程度とする。 事後学習では、就業体験の発表を、グループ別発表・討論として行うとともに、全体報告会としても実施する。さらに、実習報告書を作成し、提出させる。		
成績評価の方法	事前学習及び事後学習における課題遂行、実習受入先の評価、実習報告書等を総合して評価する。課題等については第1回の授業において提示する。課題、報告書等の提出物をすべて提出すること、授業及び実習における欠席・遅刻・早退がないこと、受入先の評価が良好であることが単位認定の必要条件である。		
テキスト	必要に応じて配布する。		
参考文献			
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	履修する学生は、自分自身や自分の進路について深く考えてきた学生であることが望ましい。履修予定者は、第1回の授業に出席して、ガイダンスの内容を理解した上で、履修するかどうかを決定すること。 授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。受講のルールについては、第1回の授業において提示する。正当な理由なく、履修の途中での放棄、事前学習、実習、事後学習での欠席・遅刻・早退は認めない。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 事前研修では、企業等での勤務経験のある外部講師によるビジネスマナー等の指導を行う。 受入先の企業等においては、実践的な研修を行う。		
授業計画	準備学習		
第1回	ガイダンス	シラバス・コースカタログを事前に目をとおすこと	
第2回	応募手続き等の説明	ガイダンスの内容をよく理解すること	
第3回	応募手続きとビジネスマナー等事前学習	前回の復習および就業体験に関する情報を収集すること	
第4回	事前学習、グループワーク	就業体験先企業等の情報を得ておくこと	
第5回	就業体験	就業体験先企業等について理解をはかり、これまでの復習をしておくこと	
第6回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと	
第7回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと	
第8回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと	
第9回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと	
第10回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと	
第11回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと	

第12回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第13回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第14回	就業体験	就業体験先企業等の指示に従うこと
第15回	事後学習および成果発表準備	就業体験時の記録をまとめておくこと
第16回	事後学習および成果発表	就業体験時の記録をまとめておくこと
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	インターンシップ		
担当教員氏名	志賀 信夫, 川原田 淳		
研究室の場所	【志賀】三原キャンパス 2518研究室, 【川原田】三原キャンパス 4424研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	特に時間帯を定めない。可能な限りいつでも対応するので、予め、メールか電話で連絡し面談の予約をすること。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	<ul style="list-style-type: none"> ・対面授業。 ・事前学習及び事後学習は、授業日程に従って、主に講義形式及び演習形式で実施する。 ・実習は原則として夏期休業中に2週間行う。 ・履修者は、事前学習、就業体験実習、事後学習における欠席・遅刻・早退は認められない。 ・すべての授業への参加と2週間の就業体験実習が義務づけられる。 		
単位数(時間数)	2.0	60	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	全学科2,3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	自己分析, 進路選択, 就業体験, 職業選択, 職業適性, ビジネスマナー		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目では、履修者が、将来職業に就く準備として、職業選択、職業適性について、自分を深く見つめるための就業体験実習を行う。学修教育目標は、①履修者が関心を持った職場や職業について主体的に調べ相手に説明できる、②就業体験実習における学びを相手に表現できる、③自らの課題を分析し、解決に向けた今後の取組みを相手に表現できる、の3点である。事前学習・就業体験実習・事後学習を通し、主体的な学修態度、周囲との協働性の育成を目指す。 ・本科目は、全学共通教育科目のキャリア科目の1つとして位置づけられている。 ・本科目は加えて、学生の進路選択を支援する大学の学生支援プログラムの一部を担っている。 		
授業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・企業、行政機関、福祉施設、各種団体などにおいて行う就業体験実習を通じて、将来の職業選択に備えて、自らが自己の職業適性や能力などについて深く考えるための契機とする。 ・事前学習では、オリエンテーション、ビジネスマナー講座、PCスキル研修、自己目標を明確にする発表・討論を行う。 ・就業体験実習は原則として夏期休業期間中の2週間とする。 ・事後学習では、就業体験実習の発表を、学内外に公開する全体報告会として実施し、グループ別発表・討論を行うとともに、その内容をまとめた実習報告書を作成・提出する。(履修者数の規模によって、発表・討議の形式を変更予定) 		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習及び事後学習における課題、授業及び実習の出席状況と取り組み態度、就業体験受入先の評価、実習報告書などを総合して評価する。 ・課題等については第1回の授業において提示する。 ・課題、報告書などの提出物をすべて提出すること、授業及び実習における欠席・遅刻・早退がないこと、受入先の評価が良好であることが単位認定の必要条件である。 		
テキスト	テキスト(教科書)は特に指定しない。		
参考文献	参考文献等を第1回の授業において印刷資料として提示する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身や自分の進路について深く考えてきた人を履修者として望みます。 ・履修希望者は、第1回の授業に出席して、ガイダンスの内容をよく理解した上で、履修するかどうかを決定してください。 ・正当な理由もなく、履修の中途での放棄、事前学習、就業体験実習、事後学習における欠席・遅刻・早退は認めません。 ・授業に関する連絡方法は、正式には教学課による掲示、受講者に対する授業内での連絡によって行います。 ・受講のルールについては、第1回の授業において提示します。 <p>【重要】第1回の授業の日程については、改めて別途掲示しますので、新学年ガイダンスや授業開始時期の掲示板等の案内に十分注意してください。</p> <p>【実務経験を活かした実践的な教育について】 事前研修では、企業等での勤務経験のある外部講師によるビジネスマナー等の指導を行う。 受入先の企業等においては、実践的な研修を行う。</p>		
授業計画			準備学習
第1回	オリエンテーション(授業概要の説明, 注意事項の伝達等)。		
第2回	就業体験実習を希望する業種、企業・福祉施設・各種団体等に関する調査①(調査方法等の説明)。		前回授業にて配布された資料を読み、指示された課題に取り組んでおく。
	就業体験実習を希望する業種、企業・福祉施設・各種団体等		

第3回	に関する調査結果の発表。また、希望の動機から、自分の興味・関心について深く考察する。	希望業種、企業・福祉施設・各種団体等に関する調査結果報告に使用する資料等を作成する。
第4回	計画書の作成。一次マッチングにかかる学内申込み状況の説明および調整。	前回授業内容を復習し、計画書を作成する。
第5回	指導教員による一般的なビジネスマナー等、就業体験実習における留意事項等を講義。	前回授業にて配布された資料を読み、指示された課題に取り組んでおく。
第6回	希望配属先企業・福祉施設・各種団体等の受入れ確認(必要に応じて第二次マッチングを実施)。プレゼンテーション研修。	前回授業にて配布された資料を読み、指示された課題に取り組んでおく。
第7回	自己目標①:受入れ企業・福祉施設・各種団体等の業務内容・課題等を整理する。その上で、就業体験実習にかかる自己目標を設定する。	前回授業にて配布された資料を読み、指示された課題に取り組んでおく。
第8回	自己目標②:受入れ企業・福祉施設・各種団体等の業務内容・課題等を整理する。その上で、就業体験実習にかかる自己目標を設定する。	前回授業にて配布された資料を読み、指示された課題に取り組んでおく。
第9回	PCスキル研修。	前回授業にて配布された資料を読み、指示された課題に取り組んでおく。
第10回	記録:日報の書き方(演習形式)。	前回授業にて配布された資料を読み、指示された課題に取り組んでおく。
第11回	最終調整と諸注意の伝達:注意事項の伝達、事故・トラブル等の発生等の対応と連絡体制、実習要項の最終確認(誓約書の作成、日報・報告書・礼状の作成、提出方法等の連絡)。	前回授業にて配布された資料を読み、指示された課題に取り組んでおく。
第12回	受入れ企業・福祉施設・各種団体等における就業体験実習の成果発表に向けた準備を行う。また、報告書を作成する。	就業体験の記録を整理し、報告書を作成しておく。
第13回	受入れ企業・福祉施設・各種団体等における就業体験実習の成果発表に向けた準備を行う。また、報告書を作成する。	報告書について、前回授業にて受けた指導をもとに推敲を行っておく。
第14回	受入れ企業・福祉施設・各種団体等における就業体験実習の成果発表に向けた準備を行う。また、報告書を作成する。	報告書について、前回授業にて受けた指導をもとに推敲を行っておく。
第15回	就業体験実習報告(口頭発表)。	報告書について、前回授業での指導をもとに推敲し、口頭での発表準備を行っておく。
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	地域の理解		
担当教員氏名	オムニバス・科目担当:五條 小枝子		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィシアワー			
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業と遠隔授業を組み合わせ実施し、フィールドワーク(1ヶ所)への参加を課す。		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別、 選択
履修要件	国際文化学科, 健康科学科, 経営学科, 経営情報学科 1~4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	広島県, 自然環境, 歴史, 文化, 産業, 地域の実態, 地域の課題		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	まずは、地域の特性や課題について、様々な観点からの知見を得る。ついで、地域の生の実態を自分の眼で観察し、課題を発見し、その解決策を模索する。最後に、フィールドワークで得られたことをグループワークでまとめ、発表する。これら一連の流れの中で、地域に関する基礎知識を身につけるとともに物事に主体的に向き合う姿勢を培う。本科目は、全学共通教育「広島と世界」に位置づけられる。		
授業の内容	<p>本科目では、我々が生活する地域(広島県)に注目し、1)「広島」をいろいろな視点から見つめる、2)「広島」の現状を理解し、その実態を肌で感じ取る、3)「広島」の問題や課題を発見し、それについて考察を加える。これらにより、広島県に対する関心や理解を深め、課題を議論できる素養を身につける。プログラムは、講義・フィールドワーク・合同発表会で構成される。広島県の自然環境、地域性、歴史、文化、産業など多岐にわたる情報を得て、地域の特性を基礎知識として身につけるとともに、フィールドワークでは、地域の実態と課題を把握し、その解決策についてグループワークで討論する。その成果を学期末の合同発表会で報告(プレゼンテーションならびにポスターセッション)し、相互評価する。</p> <p>具体的なプログラムについては、後期開始時に掲示で通知する。</p> <p>(注)シラバスは、前年度の実施内容。</p>		
成績評価の方法	①授業レポート計3回(50%) ②合同発表会における相互評価、振り返りレポート及び教員評価(40%) ③授業・フィールドワークへの取組姿勢(10%) で評価する。		
テキスト			
参考文献	参考文献は、必要に応じて、担当者から紹介する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	<p>単位認定の要件として、上述のとおり、レポート提出の他、フィールドワーク(指定された地域の中から1ヶ所選択)と合同発表会への参加を課す。合同発表会は、2020年2月7日(金)に開催するので(於:広島キャンパス)、終日予定を空けておくこと。</p> <p>フィールドワーク先への交通費・入館料等は自己負担とする。例年の平均負担額は、一人3,300円。ただし、自己負担額の上限(昨年度:3,000円)を定め、超過分について補助される可能性がある。</p> <p>受身では成果は得られない。自らが進んで地域の実態に触れ、そこにある問題に気づき、解決にはどうしたらよいか考え悩むこと。身近な問題を深く考えることによって自分自身を成長させるという能動的な取組姿勢が求められる。</p> <p>【実務経験を活かした実践的な教育について】 長年にわたり地元の自動車メーカーに勤務してきた講師により、地域のものづくりの現状、課題、展望に関する講義を行う他、公的機関・医療機関・研究機関等での実務経験の豊富な講師やNPO法人の事務局長等を迎え、地域の現状や課題をふまへ、その解決への提言までを視野に入れた講義を行う。</p>		
授業計画	準備学習		
第1回	○イントロダクション 本科目の授業内容について フィールドワークに参加するには ①	フィールドワーク先について、事前に情報を得ておく。	
第2回	○イントロダクション フィールドワークに参加するには ②	調査に基づき、フィールドワーク先を絞り込み、「希望調査票」を作成する。	
第3回	○ヒロシマを考える	適宜、口頭または掲示で指示する。	
第4回	○宮島における戦争と平和	適宜、口頭または掲示で指示する。	
第5回	○地域資源の発見から住民の手によるまちづくり	適宜、口頭または掲示で指示する。	

県立広島大学ポータルサイト

第6回	○広島県の離島で高齢化の課題に対応する地域住民活動	適宜、口頭または掲示で指示する。
第7回	○広島県の野菜作り	適宜、口頭または掲示で指示する。
第8回	○広島県の地域資源：天然記念物の樹木の保全と活用	適宜、口頭または掲示で指示する。
第9回	○車のつくり方	適宜、口頭または掲示で指示する。 第1回レポートを作成し、提出する。
第10回	○中山間地域に暮らす高齢者と専門職から見た地域	適宜、口頭または掲示で指示する。
第11回	○中山間地域における自治体の試み	適宜、口頭または掲示で指示する。
第12回	○市民活動で地域イキイキ(NPO・ボランティアを理解する)	適宜、口頭または掲示で指示する。
第13回	○広島県の農業と畜産の歴史	適宜、口頭または掲示で指示する。
第14回	○合同発表会に向けて(グループワーク)	グループ内で連絡を取り合って、役割分担等を決め、発表内容について検討する。 第2回レポートを作成し、提出する。
第15回	○合同発表会(2月7日、広島キャンパスにおいて実施)	プレゼンテーションデータならびにポスターデータを作成し、指定日までに提出する。 発表内容について、グループ内で情報共有する。
第16回		
授業計画	詳しいプログラムについては、後期開始時に掲示する。	
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	地域の理解		
担当教員氏名	オムニバス・科目担当:五條 小枝子		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスパワー			
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業と遠隔授業を組み合わせ実施し、フィールドワーク(1ヶ所)への参加を課す。		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	生命科学科, 環境科学科 1~4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	広島県, 自然環境, 歴史, 文化, 産業, 地域の実態, 地域の課題		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	まずは、地域の特性や課題について、様々な観点からの知見を得る。ついで、地域の生の実態を自分の眼で観察し、課題を発見し、その解決策を模索する。最後に、フィールドワークで得られたことをグループワークでまとめ、発表する。これら一連の流れの中で、地域に関する基礎知識を身につけるとともに物事に主体的に向き合う姿勢を培う。本科目は、全学共通教育「広島と世界」に位置づけられる。		
授業の内容	<p>本科目では、我々が生活する地域(広島県)に注目し、1)「広島」をいろいろな視点から見つめる、2)「広島」の現状を理解し、その実態を肌で感じ取る、3)「広島」の問題や課題を発見し、それについて考察を加える。これらにより、広島県に対する関心や理解を深め、課題を議論できる素養を身につける。プログラムは、講義・フィールドワーク・合同発表会で構成される。広島県の自然環境、地域性、歴史、文化、産業など多岐にわたる情報を得て、地域の特性を基礎知識として身につけるとともに、フィールドワークでは、地域の実態と課題を把握し、その解決策についてグループワークで討論する。その成果を学期末の合同発表会で報告(プレゼンテーションならびにポスターセッション)し、相互評価する。</p> <p>具体的なプログラムについては、後期開始時に掲示で通知する。</p> <p>(注)シラバスは、前年度の実施内容。</p>		
成績評価の方法	①授業レポート計3回(50%) ②合同発表会における相互評価、振り返りレポート及び教員評価(40%) ③授業・フィールドワークへの取組姿勢(10%) で評価する。		
テキスト			
参考文献	参考文献は、必要に応じて、担当者から紹介する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	<p>単位認定の要件として、上述のとおり、レポート提出の他、フィールドワーク(指定された地域の中から1ヶ所選択)と合同発表会への参加を課す。合同発表会は、2020年2月7日(金)に開催するので(於:広島キャンパス)、終日予定を空けておくこと。</p> <p>フィールドワーク先への交通費・入館料等は自己負担とする。例年の平均負担額は、一人3,300円。ただし、自己負担額の上限(昨年度:3,000円)を定め、超過分について補助される可能性がある。</p> <p>受身では成果は得られない。自らが進んで地域の実態に触れ、そこにある問題に気づき、解決にはどうしたらよいか考え悩むこと。身近な問題を深く考えることによって自分自身を成長させるという能動的な取組姿勢が求められる。</p> <p>【実務経験を活かした実践的な教育について】 長年にわたり地元自動車メーカーに勤務してきた講師により、地域のものづくりの現状、課題、展望に関する講義を行う他、公的機関・医療機関・研究機関等での実務経験の豊富な講師やNPO法人の事務局長等を迎え、地域の現状や課題をふまえ、その解決への提言までを視野に入れた講義を行う。</p>		
授業計画	準備学習		
第1回	○イントロダクション 本科目の授業内容について フィールドワークに参加するには ①	フィールドワーク先について、事前に情報を得ておく。	
第2回	○イントロダクション フィールドワークに参加するには ②	調査に基づき、フィールドワーク先を絞り込み、「希望調査票」を作成する。	
第3回	○ヒロシマを考える	適宜、口頭または掲示で指示する。	
第4回	○宮島における戦争と平和	適宜、口頭または掲示で指示する。	
第5回	○地域資源の発見から住民の手によるまちづくり	適宜、口頭または掲示で指示する。	

第6回	○広島県の離島で高齢化の課題に対応する地域住民活動	適宜、口頭または掲示で指示する。
第7回	○広島県の野菜作り	適宜、口頭または掲示で指示する。
第8回	○広島県の地域資源:天然記念物の樹木の保全と活用	適宜、口頭または掲示で指示する。
第9回	○車のつくり方	適宜、口頭または掲示で指示する。 第1回レポートを作成し、提出する。
第10回	○中山間地域に暮らす高齢者と専門職から見た地域	適宜、口頭または掲示で指示する。
第11回	○中山間地域における自治体の試み	適宜、口頭または掲示で指示する。
第12回	○市民活動で地域イキイキ(NPO・ボランティアを理解する)	適宜、口頭または掲示で指示する。
第13回	○広島県の農業と畜産の歴史	適宜、口頭または掲示で指示する。
第14回	○合同発表会に向けて(グループワーク)	グループ内で連絡を取り合っ、役割分担等を決め、発表内容について検討する。 第2回レポートを作成し、提出する。
第15回	○合同発表会(2月7日、広島キャンパスにおいて実施)	プレゼンテーションデータならびにポスターデータを作成し、指定日までに提出する。 発表内容について、グループ内で情報共有する。
第16回		
授業計画	詳しいプログラムについては、後期開始時に掲示する。	
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	地域の理解		
担当教員氏名	オムニバス・科目担当:五條 小枝子, キャンパス担当:手島洋		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー			
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業と遠隔授業を組み合わせ実施し、フィールドワーク(1ヶ所)への参加を課す。		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	看護学科, 理学療法学科, 作業療法学科, コミュニケーション障害学科, 人間福祉学科 1~2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	広島県, 自然環境, 歴史, 文化, 産業, 地域の実態, 地域の課題		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	まずは、地域の特性や課題について、様々な観点からの知見を得る。ついで、地域の生の実態を自分の眼で観察し、課題を発見し、その解決策を模索する。最後に、フィールドワークで得られたことをグループワークでまとめ、発表する。これら一連の流れの中で、地域に関する基礎知識を身につけるとともに物事に主体的に向き合う姿勢を培う。本科目は、全学共通教育「広島と世界」に位置づけられる。		
授業の内容	<p>本科目では、我々が生活する地域(広島県)に注目し、1)「広島」をいろいろな視点から見つめる、2)「広島」の現状を理解し、その実態を肌で感じ取る、3)「広島」の問題や課題を発見し、それについて考察を加える。これらにより、広島県に対する関心や理解を深め、課題を議論できる素養を身につける。プログラムは、講義・フィールドワーク・合同発表会で構成される。広島県の自然環境、地域性、歴史、文化、産業など多岐にわたる情報を得て、地域の特性を基礎知識として身につけるとともに、フィールドワークでは、地域の実態と課題を把握し、その解決策についてグループワークで討論する。その成果を学期末の合同発表会で報告(プレゼンテーションならびにポスターセッション)し、相互評価する。</p> <p>具体的なプログラムについては、後期開始時に掲示で通知する。</p> <p>(注)シラバスは、前年度の実施内容。</p>		
成績評価の方法	①授業レポート計3回(50%) ②合同発表会における相互評価、振り返りレポート及び教員評価(40%) ③授業・フィールドワークへの取組姿勢(10%) で評価する。		
テキスト			
参考文献	参考文献は、必要に応じて、担当者から紹介する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	<p>単位認定の要件として、上述のとおり、レポート提出の他、フィールドワーク(指定された地域の中から1ヶ所選択)と合同発表会への参加を課す。合同発表会は、2020年2月7日(金)に開催するので(於:広島キャンパス)、終日予定を空けておくこと。</p> <p>フィールドワーク先への交通費・入館料等は自己負担とする。例年の平均負担額は、一人3,300円。ただし、自己負担額の上限(昨年度:3,000円)を定め、超過分について補助される可能性がある。</p> <p>受身では成果は得られない。自らが進んで地域の実態に触れ、そこにある問題に気づき、解決にはどうしたらよいか考え悩むこと。身近な問題を深く考えることによって自分自身を成長させるという能動的な取組姿勢が求められる。</p> <p>【実務経験を活かした実践的な教育について】 長年にわたり地元の自動車メーカーに勤務してきた講師により、地域のものづくりの現状、課題、展望に関する講義を行う他、公的機関・医療機関・研究機関等での実務経験の豊富な講師やNPO法人の事務局長等を迎え、地域の現状や課題をふまえ、その解決への提言までを視野に入れた講義を行う。</p>		
授業計画	準備学習		
第1回	○イントロダクション 本科目の授業内容について フィールドワークに参加するには ①	フィールドワーク先について、事前に情報を得ておく。	
第2回	○イントロダクション フィールドワークに参加するには ②	調査に基づき、フィールドワーク先を絞り込み、「希望調査票」を作成する。	
第3回	○ヒロシマを考える	適宜、口頭または掲示で指示する。	
第4回	○宮島における戦争と平和	適宜、口頭または掲示で指示する。	
第5回	○地域資源の発見から住民の手によるまちづくり	適宜、口頭または掲示で指示する。	

第6回	○広島県の離島で高齢化の課題に対応する地域住民活動	適宜、口頭または掲示で指示する。
第7回	○広島県の野菜作り	適宜、口頭または掲示で指示する。
第8回	○広島県の地域資源：天然記念物の樹木の保全と活用	適宜、口頭または掲示で指示する。
第9回	○車のつくり方	適宜、口頭または掲示で指示する。 第1回レポートを作成し、提出する。
第10回	○中山間地域に暮らす高齢者と専門職から見た地域	適宜、口頭または掲示で指示する。
第11回	○中山間地域における自治体の試み	適宜、口頭または掲示で指示する。
第12回	○市民活動で地域イキイキ(NPO・ボランティアを理解する)	適宜、口頭または掲示で指示する。
第13回	○広島県の農業と畜産の歴史	適宜、口頭または掲示で指示する。
第14回	○合同発表会に向けて(グループワーク)	グループ内で連絡を取り合っ、役割分担等を決め、発表内容について検討する。 第2回レポートを作成し、提出する。
第15回	○合同発表会(2月7日、広島キャンパスにおいて実施)	プレゼンテーションデータならびにポスターデータを作成し、指定日までに提出する。 発表内容について、グループ内で情報共有する。
第16回		
授業計画	詳しいプログラムについては、後期開始時に掲示する。	
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2019/07/17(水)10:18

授業科目名	地域情報発信論		
担当教員氏名	五條 小枝子, 広谷 大助, 馬本 勉, 藤井宣彰, 吉田倫子 (広島キャンパス担当 五條小枝子, 広谷大助)		
研究室の場所	広島キャンパス 2218研究室(五條), 1634研究室(広谷)		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	随時		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業。 前期集中講義(4日間。2019年9月2日(月)~5日(木)の予定)。 サテライトキャンパスひろしまで実施。 期間中のフィールドワークを含む。		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	国際文化学科, 健康科学科, 経営学科, 経営情報学科 2~4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	新聞, 取材, ディベート, ディスカッション, 記事, グループワーク, プレゼンテーション		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	地域の情報を広く伝える新聞の役割を学び, 地域に密着したテーマについて取材, 記事の編集, 発信に至る一連の流れを体験することを通じて, 地域情報の発信力を身につける。 本科目は, 全学共通教育「広島と世界」に位置づけられる。		
授業の内容	新聞で報じられた地域の情報を素材として, 新聞の読み方, 取材対象の見方, 記事作成の手法を学ぶとともに, 新聞情報の分析を通じて地域の諸問題を掘り下げていく。 テーマに沿った記事を読み, 課題を設定した上で, 現地へ出向いて取材し, 意見交換を経て記事をまとめるなど, 地域情報の受信・発信の方法を学ぶ。さらに, グループで課題解決への提案をまとめ, ポスター発表を行うことを通じて議論を深める。		
成績評価の方法	課題レポート(50%) グループ討議, ポスター発表を含む, 授業への参加度(50%)		
テキスト	事前に配付される新聞を用いる。		
参考文献	適宜紹介する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	日頃より新聞に親しみ, 幅広く地域の情報に触れるとともに, 報じられている内容に関する情報を積極的に集め, 自分の意見を述べる機会を持つよう努めてほしい。 集中講義の詳細な日程・テーマ等は, 掲示により確認すること。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 長年にわたり記者として地元の新聞社に勤務してきた学外講師により, 取材や記事のまとめ方に関する講義を行う。		

授業計画	準備学習
第1回	
第2回	
第3回	
第4回	
第5回	
第6回	
第7回	
第8回	
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	
第13回	
第14回	
第15回	

第16回	
授業計画	<p>授業の流れは概ね次のとおり(一部変更の可能性あり)。</p> <p>事前課題: 試読期間(7月下旬)に配付された新聞を読み, 記事を選んで概要をまとめ, 意見を述べる。</p> <p>第1日: オリエンテーション, 事前課題の確認, 新聞の読み方 第2日: 取材計画, 写真撮影・取材実習(フィールドワーク) 第3日: グループ討議, 記事風レポート作成・発表 第4日: ポスター制作, ポスター発表, 振り返り討議</p> <p>期間中の課題: 翌日の授業内容に関連した準備課題に取り組む。</p> <p>事後課題: 授業で学び得たことを踏まえて, 新たな課題を発見し, レポートをまとめる。</p>
シラバス備考	
URLリンク1	
URLリンク2	
URLリンク3	

2019/07/17(水)10:18

授業科目名	地域情報発信論		
担当教員氏名	五條 小枝子, 広谷 大助, 馬本 勉, 藤井 宣彰, 吉田 倫子 (庄原キャンパス担当 馬本 勉, 藤井 宣彰)		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	メール等で予約をしてください。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業。前期集中講義(4日間。2019年9月2日(月)～5日(木)の予定)。サテライトキャンパスひろしまで実施。期間中のフィールドワークを含む。		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	生命環境学部全学科2～4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	新聞, 取材, ディベート, ディスカッション, 記事, グループワーク, プレゼンテーション		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	地域の情報を広く伝える新聞の役割を学び, 地域に密着したテーマについて取材, 記事の編集, 発信に至る一連の流れを体験することを通じて, 地域情報の発信力を身につける。 本科目は, 全学共通教育「広島と世界」に位置づけられる。		
授業の内容	新聞で報じられた地域の情報を素材として, 新聞の読み方, 取材対象の見方, 記事作成の手法を学ぶとともに, 新聞情報の分析を通じて地域の諸問題を掘り下げていく。 テーマに沿った記事を読み, 課題を設定した上で現地へ出向いて取材し, 意見交換を経て記事をまとめるなど, 地域情報の受信・発信の方法を学ぶ。さらに, グループで課題解決への提案をまとめ, ポスター発表を行うことを通じて議論を深める。		
成績評価の方法	①課題レポート(50%) ②グループ討議, ポスター発表を含む, 授業への参加度(50%)		
テキスト	事前に配付される新聞を用いる。		
参考文献	適宜紹介する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	日頃より新聞に親しみ, 幅広く地域の情報に触れるとともに, 報じられている内容に関する情報を積極的に集め, 自分の意見を述べる機会を持つよう努めてほしい。 集中講義の詳細な日程・テーマ等は, 掲示により確認すること。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 長年にわたり記者として地元の新聞社に勤務してきた学外講師により, 取材や記事のまとめ方に関する講義を行う。		

授業計画	準備学習
第1回	
第2回	
第3回	
第4回	
第5回	
第6回	
第7回	
第8回	
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	
第13回	
第14回	
第15回	
第16回	
授業の流れは概ね次の通り(一部変更の可能性あり)。	

<p>授業計画</p>	<p>事前課題: 試読期間(7月下旬)に配付された新聞を読み, 記事を選んで概要をまとめ, 意見を述べる。</p> <p>第1日: オリエンテーション, 事前課題の確認, 新聞の読み方 第2日: 取材計画, 写真撮影・取材実習(フィールドワーク) 第3日: グループ討議, 記事風レポート作成・発表 第4日: ポスター制作, ポスター発表, 振り返り討議</p> <p>期間中の課題: 翌日の授業内容に関連した準備課題に取り組む。</p> <p>事後課題: 授業で学び得たことを踏まえて, 新たな課題を発見し, レポートをまとめる。</p>
<p>シラバス備考</p>	
<p>URLリンク1</p>	
<p>URLリンク2</p>	
<p>URLリンク3</p>	

2019/07/17(水)10:19

授業科目名	地域情報発信論		
担当教員氏名	五條 小枝子, 広谷 大助, 馬本 勉, 藤井 宣彰, 吉田 倫子 (三原キャンパス担当 吉田倫子)		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	メール等で予約をしてください。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業。 前期集中講義(4日間。2019年9月2日(月)~5日(木)の予定)。 サテライトキャンパスひろしまで実施。 期間中のフィールドワークを含む。		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	保健福祉学部全学科2~4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	新聞, 取材, デイバート, ディスカッション, 記事, グループワーク, プレゼンテーション		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	地域の情報を広く伝える新聞の役割を学び, 地域に密着したテーマについて取材, 記事の編集, 発信に至る一連の流れを体験することを通じて, 地域情報の発信力を身につける。 本科目は, 全学共通教育「広島と世界」に位置づけられる。		
授業の内容	新聞で報じられた地域の情報を素材として, 新聞の読み方, 取材対象の見方, 記事作成の手法を学ぶとともに, 新聞情報の分析を通じて地域の諸問題を掘り下げていく。 テーマに沿った記事を読み, 課題を設定した上で現地へ出向いて取材し, 意見交換を経て記事をまとめるなど, 地域情報の受信・発信の方法を学ぶ。さらに, グループで課題解決への提案をまとめ, ポスター発表を行うことを通じて議論を深める。		
成績評価の方法	課題レポート(50%) グループ討議, ポスター発表を含む, 授業への参加度(50%)		
テキスト	事前に配付される新聞を用いる。		
参考文献	適宜紹介する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	日頃より新聞に親しみ, 幅広く地域の情報に触れるとともに, 報じられている内容に関する情報を積極的に集め, 自分の意見を述べる機会を持つよう努めてほしい。 集中講義の詳細な日程等は, 掲示により確認すること。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 長年にわたり記者として地元の新聞社に勤務してきた学外講師により, 取材や記事のまとめ方に関する講義を行う。		
授業計画	準備学習		
第1回			
第2回			
第3回			
第4回			
第5回			
第6回			
第7回			
第8回			
第9回			
第10回			
第11回			
第12回			
第13回			
第14回			
第15回			

第16回	
授業計画	<p>授業の流れは概ね次の通り(一部変更の可能性あり)。</p> <p>事前課題: 試読期間(7月下旬)に配付された新聞を読み, 記事を選んで概要をまとめ, 意見を述べる。</p> <p>第1日: オリエンテーション, 事前課題の確認, 新聞の読み方 第2日: 取材計画, 写真撮影・取材実習(フィールドワーク) 第3日: グループ討議, 記事風レポート作成・発表 第4日: ポスター制作, ポスター発表, 振り返り討議</p> <p>事後課題: 授業で学び得たことを踏まえて, 新たな課題を発見し, レポートをまとめる。</p>
シラバス備考	
URLリンク1	
URLリンク2	
URLリンク3	

2019/07/17(水)10:30

授業科目名	生活化学		
担当教員氏名	長尾 則男		
研究室の場所	庄原キャンパス 4504研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	随時		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、主に配布プリント、パワーポイントのスライド等による講義形式で講義を行うが、グループ討論も随時取り入れる。メディア等に取り上げられた化的な話題も取り扱う。毎回、小テストおよびレポート課題を課す。講義出席、小テスト・レポート提出および定期考査を受けることが義務付けられる。		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	国際文化学科, 健康科学科, 経営学科, 経営情報学科1~4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	化学, 人体, 健康, 食品, 薬品, 産業, 環境, 化学的事象, 化学物質		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	「身近な化学」に関する講義を展開し、生命環境学部分野に必要な化学的知識を理解できるよう、また、今後学んでいく専門領域への橋渡しとなるよう、基礎知識の充実を目的とし、初年次生を想定して授業を進める。		
授業の内容	身の回りの化学が関与する事例を紹介しながら、化学への興味・関心を高め、化学の役割を理解し、化学的な思考ができるようになることを目指す。具体的には、生命の化学、食の化学、暮らしの化学、技術の化学、環境の化学等々について解説する。		
成績評価の方法	定期考査50%、課題レポート30%、小テスト20%の割合で評価する。出席状況は重視する。試験は指定された教室(試験室)内で持ち込み不可で実施し、指定された試験日の講義時間(90分)内で実施する。		
テキスト	特定の教科書は用いない。プリント、スライド等を用いて講義する。		
参考文献	松田勝彦 (2011). 商品から学ぶ化学の基礎. 化学同人 武田徳司, 平松紘実, 喜多泰夫 (2015). 生活用品の化学が一番わかる (しくみ図解). 技術評論社		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡で行う。試験等において、本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は、大学の規則(学則)に基づいて対応する。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 民間化学メーカーでの分析業務の勤務経験を生かし、物質の濃度を定量的に分析する方法の吸光度分析を取り上げる(第2~5回)。		

授業計画		準備学習
第1回	化学とは何か。 生活化学で取り扱う領域を説明する。	化学物質(有機物質、無機物質)の構成、元素、分子、原子について学びます。身近な化学について取り上げます。シラバスで授業内容を理解しておくこと。
第2回	化学変化と色変化(1) 色の見え方と光の吸収、色彩変化と化学反応について学ぶ。 例として感熱紙を取り上げる。	色の見え方や目の構造についてネットや図書館資料等を当たってみてください。
第3回	化学変化と色変化(2) 酸とアルカリ、モル概念、pHについて説明する。 アジサイと土壌pHや紫キャベツアントシアニンを例示する。	取り上げる内容についてネットや書籍等で原理や工夫点をさらに深く調べてみてください。
第4回	化学変化と色変化(3) 酸塩基平衡について学ぶ。 血中のpHコントロールを例示する。	取り上げる内容について高校等で使用した化学の教科書・参考書等を、あらかじめ読んでおいてください。関連情報についてネットや書籍等で調べてみてください。
第5回	化学変化と色変化(4) 吸収スペクトル、吸光度、分光光度計やパルスオキシメーター、加速度脈波計について学ぶ。	取り上げる内容についてネットや書籍等で原理や工夫点をさらに深く調べてみてください。
第6回	生活の化学(1) 染色を取り上げて、酸化・還元について学ぶ。	取り上げる内容についてネットや書籍等でさらに深く

	温泉黒たまごや毛染めについて言及する。	調べてみてください。
第7回	生活の化学(2) 緩衝液の例として、血液中、細胞培養液中のpH調整について学ぶ。化学発光についてホタルやケミカルライトを取り上げます。	取り上げる内容についてネットや書籍等で原理や反応式について調べてみてください。
第8回	生活の化学(3) 洗剤、界面活性剤の性質、特性について学ぶ。	油脂、せっけん、けん化 について高校等で使用した化学の教科書・参考書やネット等で関連情報に触れてみてください。
第9回	生活の化学(4) 衣服に利用されている化合物について学ぶ。	天然高分子、人工高分子について高校等で使用した化学の教科書・参考書やネット等で関連情報に触れてみてください。
第10回	食品の化学(1) 味覚、うま味成分について学ぶ。 化学調味料を取り上げる。	取り上げる内容についてネットや書籍等で歴史や製造法について調べてみてください。
第11回	食品の化学(2) 調理と化学的手法について説明する。	取り上げる内容についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第12回	食品の化学(3) 糖質、糖化について学ぶ。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第13回	食品の化学(4) 物質の状態変化、水の性質、凝固点降下について取り上げる。例としてアイスクリームを示す。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第14回	エネルギーと化学(1) 物質の状態変化、気体の性質について学ぶ。 エアコンのしくみを示す。	気化熱やエアコンの関連情報についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第15回	エネルギーと化学(2)全体のまとめ 電気、電池を化学的視点から学ぶ。 生活化学で取り上げた内容を振り返る。	歴史や開発過程等の関連情報についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。 生活化学でこれまでに取り上げた内容で興味を持ったものについて、自分なりに調べて説明できるように準備してください。
第16回		
授業計画		
シラバス備考	レポート作成を通じて知識を整理することでさらに理解が深まることを指向する「復習」として、単元ごとに各講義で取り上げる内容について自分なりに調べて、図示、図解して手書きレポートA4紙1枚としてまとめることを課す。	
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2019/07/17(水)10:29

授業科目名	生活化学		
担当教員氏名	長尾 則男		
研究室の場所	庄原キャンパス 4504研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	随時		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、主に配布プリント、パワーポイントのスライド等による講義形式で講義を行うが、グループ討論も随時取り入れる。メディア等に取り上げられた化的な話題も取り扱う。毎回、小テストおよびレポート課題を課す。講義出席、小テスト・レポート提出および定期考査を受けることが義務付けられる。		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	生命環境学部全学科1~4年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	化学, 人体, 健康, 食品, 薬品, 産業, 環境, 化学的事象, 化学物質		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	「身近な化学」に関する講義を展開し、生命環境学部分野に必要な化学的知識を理解できるよう、また、今後学んでいく専門領域への橋渡しとなるよう、基礎知識の充実を目的とし、初年次生を想定して授業を進める。		
授業の内容	身の回りの化学が関与する事例を紹介しながら、化学への興味・関心を高め、化学の役割を理解し、化学的な思考ができるようになることを目指す。具体的には、生命の化学、食の化学、暮らしの化学、技術の化学、環境の化学等々について解説する。		
成績評価の方法	定期考査50%、課題レポート30%、小テスト20%の割合で評価する。出席状況は重視する。試験は指定された教室(試験室)内で持ち込み不可で実施し、指定された試験日の講義時間(90分)内で実施する。		
テキスト	特定の教科書は用いない。プリント、スライド等を用いて講義する。		
参考文献	松田勝彦 (2011). 商品から学ぶ化学の基礎. 化学同人 武田徳司, 平松紘実, 喜多泰夫 (2015). 生活用品の化学が一番わかる (しくみ図解). 技術評論社		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡で行う。試験等において、本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は、大学の規則(学則)に基づいて対応する。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 民間化学メーカーでの分析業務の勤務経験を生かし、物質の濃度を定量的に分析する方法の吸光度分析を取り上げる(第2~5回)。		

授業計画		準備学習
第1回	化学とは何か。 生活化学で取り扱う領域を説明する。	化学物質(有機物質、無機物質)の構成、元素、分子、原子について学びます。身近な化学について取り上げます。シラバスで授業内容を理解しておくこと。
第2回	化学変化と色変化(1) 色の見え方と光の吸収、色彩変化と化学反応について学ぶ。 例として感熱紙を取り上げる。	色の見え方や目の構造についてネットや図書館資料等を当たってみてください。
第3回	化学変化と色変化(2) 酸とアルカリ、モル概念、pHについて説明する。 アジサイと土壌pHや紫キャベツアントシアニンを例示する。	取り上げる内容についてネットや書籍等で原理や工夫点をさらに深く調べてみてください。
第4回	化学変化と色変化(3) 酸塩基平衡について学ぶ。 血中のpHコントロールを例示する。	取り上げる内容について高校等で使用した化学の教科書・参考書等を、あらかじめ読んでおいてください。関連情報についてネットや書籍等で調べてみてください。
第5回	化学変化と色変化(4) 吸収スペクトル、吸光度、分光光度計やパルスオキシメーター、加速度脈波計について学ぶ。	取り上げる内容についてネットや書籍等で原理や工夫点をさらに深く調べてみてください。
第6回	生活の化学(1) 染色を取り上げて、酸化・還元について学ぶ。	取り上げる内容についてネットや書籍等でさらに深く

	温泉黒たまごや毛染めについて言及する。	調べてみてください。
第7回	生活の化学(2) 緩衝液の例として、血液中、細胞培養液中のpH調整について学ぶ。化学発光についてホタルやケミカルライトを取り上げます。	取り上げる内容についてネットや書籍等で原理や反応式について調べてみてください。
第8回	生活の化学(3) 洗剤、界面活性剤の性質、特性について学ぶ。	油脂、せっけん、けん化 について高校等で使用した化学の教科書・参考書やネット等で関連情報に触れてみてください。
第9回	生活の化学(4) 衣服に利用されている化合物について学ぶ。	天然高分子、人工高分子について高校等で使用した化学の教科書・参考書やネット等で関連情報に触れてみてください。
第10回	食品の化学(1) 味覚、うま味成分について学ぶ。 化学調味料を取り上げる。	取り上げる内容についてネットや書籍等で歴史や製造法について調べてみてください。
第11回	食品の化学(2) 調理と化学的手法について説明する。	取り上げる内容についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第12回	食品の化学(3) 糖質、糖化について学ぶ。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第13回	食品の化学(4) 物質の状態変化、水の性質、凝固点降下について取り上げる。例としてアイスクリームを示す。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第14回	エネルギーと化学(1) 物質の状態変化、気体の性質について学ぶ。 エアコンのしくみを示す。	気化熱やエアコンの関連情報についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第15回	エネルギーと化学(2)全体のまとめ 電気、電池を化学的視点から学ぶ。 生活化学で取り上げた内容を振り返る。	歴史や開発過程等の関連情報についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。 生活化学でこれまでに取り上げた内容に興味を持ったものについて、自分なりに調べて説明できるように準備してください。
第16回		
授業計画		
シラバス備考	レポート作成を通じて知識を整理することでさらに理解が深まることを指向する「復習」として、単元ごとに各講義で取り上げる内容について自分なりに調べて、図示、図解して手書きレポートA4紙1枚としてまとめることを課す。	
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2019/07/17(水)10:30

授業科目名	生活化学		
担当教員氏名	長尾 則男		
研究室の場所	庄原キャンパス 4504研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	随時		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、主に配布プリント、パワーポイントのスライド等による講義形式で講義を行うが、グループ討論も随時取り入れる。メディア等に取り上げられた化的な話題も取り扱う。毎回、小テストおよびレポート課題を課す。講義出席、小テスト・レポート提出および定期考査を受けることが義務付けられる。		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	保健福祉学部全学科1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	化学, 人体, 健康, 食品, 薬品, 産業, 環境, 化学的事象, 化学物質		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	「身近な化学」に関する講義を展開し、生命環境学部分野に必要な化学的知識を理解できるよう、また、今後学んでいく専門領域への橋渡しとなるよう、基礎知識の充実を目的とし、初年次生を想定して授業を進める。		
授業の内容	身の回りの化学が関与する事例を紹介しながら、化学への興味・関心を高め、化学の役割を理解し、化学的な思考ができるようになることを目指す。具体的には、生命の化学、食の化学、暮らしの化学、技術の化学、環境の化学等々について解説する。		
成績評価の方法	定期考査50%, 課題レポート30%, 小テスト20%の割合で評価する。出席状況は重視する。試験は指定された教室(試験室)内で持ち込み不可で実施し、指定された試験日の講義時間(90分)内で実施する。		
テキスト	特定の教科書は用いない。プリント、スライド等を用いて講義する。		
参考文献	松田勝彦(2011). 商品から学ぶ化学の基礎. 化学同人 武田徳司, 平松紘実, 喜多泰夫(2015). 生活用品の化学が一番わかる(しくみ図解). 技術評論社		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	授業に関する連絡方法は、正式には教学課の掲示、学生に対する授業内での連絡で行う。試験等において、本学において規定された不正行為を禁止する。不正行為が明らかになった場合は、大学の規則(学則)に基づいて対応する。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 民間化学メーカーでの分析業務の勤務経験を生かし、物質の濃度を定量的に分析する方法の吸光度分析を取り上げる(第2~5回)。		

授業計画		準備学習
第1回	化学とは何か。 生活化学で取り扱う領域を説明する。	化学物質(有機物質、無機物質)の構成、元素、分子、原子について学びます。身近な化学について取り上げます。シラバスで授業内容を理解しておくこと。
第2回	化学変化と色変化(1) 色の見え方と光の吸収、色彩変化と化学反応について学ぶ。 例として感熱紙を取り上げる。	色の見え方や目の構造についてネットや図書館資料等を当たってみてください。
第3回	化学変化と色変化(2) 酸とアルカリ、モル概念、pHについて説明する。 アジサイと土壌pHや紫キャベツアントシアニンを例示する。	取り上げる内容についてネットや書籍等で原理や工夫点をさらに深く調べてみてください。
第4回	化学変化と色変化(3) 酸塩基平衡について学ぶ。 血中のpHコントロールを例示する。	取り上げる内容について高校等で使用した化学の教科書・参考書等を、あらかじめ読んでおいてください。関連情報についてネットや書籍等で調べてみてください。
第5回	化学変化と色変化(4) 吸収スペクトル、吸光度、分光光度計やパルスオキシメーター、加速度脈波計について学ぶ。	取り上げる内容についてネットや書籍等で原理や工夫点をさらに深く調べてみてください。
第6回	生活の化学(1) 染色を取り上げて、酸化・還元について学ぶ。	取り上げる内容についてネットや書籍等でさらに深く

	温泉黒たまごや毛染めについて言及する。	調べてみてください。
第7回	生活の化学(2) 緩衝液の例として、血液中、細胞培養液中のpH調整について学ぶ。化学発光についてホタルやケミカルライトを取り上げます。	取り上げる内容についてネットや書籍等で原理や反応式について調べてみてください。
第8回	生活の化学(3) 洗剤、界面活性剤の性質、特性について学ぶ。	油脂、せっけん、けん化 について高校等で使用した化学の教科書・参考書やネット等で関連情報に触れてみてください。
第9回	生活の化学(4) 衣服に利用されている化合物について学ぶ。	天然高分子、人工高分子について高校等で使用した化学の教科書・参考書やネット等で関連情報に触れてみてください。
第10回	食品の化学(1) 味覚、うま味成分について学ぶ。 化学調味料を取り上げる。	取り上げる内容についてネットや書籍等で歴史や製造法について調べてみてください。
第11回	食品の化学(2) 調理と化学的手法について説明する。	取り上げる内容についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第12回	食品の化学(3) 糖質、糖化について学ぶ。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第13回	食品の化学(4) 物質の状態変化、水の性質、凝固点降下について取り上げる。例としてアイスクリームを示す。	取り上げる内容について関連情報についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第14回	エネルギーと化学(1) 物質の状態変化、気体の性質について学ぶ。 エアコンのしくみを示す。	気化熱やエアコンの関連情報についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。
第15回	エネルギーと化学(2)全体のまとめ 電気、電池を化学的視点から学ぶ。 生活化学で取り上げた内容を振り返る。	歴史や開発過程等の関連情報についてネットや書籍等でさらに深く調べてみてください。 生活化学でこれまでに取り上げた内容に興味を持ったものについて、自分なりに調べて説明できるように準備してください。
第16回		
授業計画		
シラバス備考	レポート作成を通じて知識を整理することでさらに理解が深まることを指向する「復習」として、単元ごとに各講義で取り上げる内容について自分なりに調べて、図示、図解して手書きレポートA4紙1枚としてまとめることを課す。	
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	博物館概論		
担当教員氏名	鈴木 康之		
研究室の場所	広島キャンパス 1912研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィアワー	研究室に在室中は基本的に対応可。事前にメール等で連絡することが望ましい。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業の講義形式で行う。		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	国際文化学科 2年次対象		
免許等指定科目	学芸員資格に係る必修		
キーワード	博物館、学芸員、資料、展示、収集、保存、学習支援、法規		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	博物館学芸員資格取得のための必修科目。学芸員養成に関する諸科目の入門的な役割を果たす科目である。博物館の専門的業務に従事する学芸員をめざすうえで必要とされる、基礎的知識と能力を養う。		
授業の内容	博物館とは何か、学芸員はそこでどのような役割を担うのかを包括的に学習する。現在の博物館をとりまく状況を理解するなかから、自らのめざす学芸員像を思い描いて欲しい。 授業の中で、2～3本のレポート課題を提示する。実際に博物館・美術館・資料館などを見学し、その成果をレポートにまとめること。		
成績評価の方法	レポート(20%)と期末試験(80%)によって評価する。レポートによって自らのめざす学芸員像がイメージできているか、期末試験によって基礎知識の習得度を評価する。		
テキスト	特定のテキストは使用しない。プリントを配布する。		
参考文献	オノユウリ『美術館で働くということ』KADOKAWA/メディアファクトリー、倉田公裕ほか『博物館学』東京堂出版、神奈川県博物館協会編『学芸員の仕事』岩田書院		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	学芸員資格を取得するための入口に当たる授業です。博物館について学ぶためには、まず博物館に行かなければ何も学べません。キャンパスメンバーズ制度を利用して、多くの博物館・美術館・資料館に行ってみてください。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 この科目では、公立博物館の開設・運営に関する実務経験を持つ教員が、博物館に関する基礎的な知識と、その専門職員である学芸員に求められる理論を実践的な事例にもとづいて指導する。		

授業計画	準備学習
第1回	博物館学芸員とは 博物館において学芸員はどのような仕事をしているのかを考えてみる。
第2回	博物館の歴史 現在のような博物館の形態はどのようにして形成されたのかを考えてみる。
第3回	博物館の定義と種類 動物園や水族館も博物館に含まれる。なぜだろう。どのような共通点があるのか。考えをまとめておく。
第4回	博物館の目的と機能 博物館は何のために存在しているの、どのような役割を担っているのか、考えをまとめておく。
第5回	博物館の組織と職員 博物館を機能させるためにはそのような運営組織が必要か、考えをまとめておく。
第6回	博物館資料とその収集 魅力的な博物館のコレクションを形成するにはどうすればいいのか？考えをまとめておく。
第7回	博物館資料の情報化 博物館と情報処理、どのような関係があるのか考えておく。
第8回	展示 自分の行ったことのある博物館でどのような展示が行われていたかを思い出してみる。
第9回	資料の保存 博物館資料はなぜ劣化するのか？それを防ぐためにはどうすればいいのか？考えをまとめておく。
第10回	資料の取り扱い 博物館資料の取り扱いに際してどのような点に注意すべきか、考えをまとめておく。
第11回	学校教育と博物館 博物館は学校教育にどのような貢献ができるのか？考えをまとめておく。
第12回	生涯学習と博物館 教育と学習の違いについて考えをまとめておく。
	博物館とそれが所在する地域とがどのような関係を

第13回	地域社会とのコミュニケーション	もっているのか、考えをまとめておく。
第14回	博物館関連法規	博物館に関連する法律が果たす役割について考えておく。
第15回	空想展覧会	これまでの学習を踏まえ、自分が学芸員であったらどのような展覧会を企画・運営するのかをまとめておく。
第16回		
授業計画	博物館はなぜ存在するのか、そこではどのような事業が展開され、専門職員である学芸員はどのような役割を果たすのかを、新聞記事なども取り上げながら具体的に考察する。最終回の事業では、各自の学習成果を踏まえて、自分ならどのような展覧会や行事を企画するかを「空想展覧会」としてプレゼンテーションする。	
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	病理解剖学 I		
担当教員氏名	北台 靖彦		
研究室の場所	広島キャンパス 1426 研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	火曜日、木曜日、午後4時-6時 要予約		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業。教科書または配布資料に沿って、講義形式で実施する。必要に応じてスライドを用いる。毎回、小テストを行う。授業の最後に提出すると出席としてカウントされる。		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	健康科学科 1年次対象		
免許等指定科目	管理栄養士国家試験受験資格に係る必修		
キーワード	医学、医療、医の倫理、健康、病気の内因外因、炎症、腫瘍、診断学、剖検		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	医学には、自然科学としての医学(基礎医学、臨床医学、予防医学と保健学、環境医学、産業医学、医療情報学)、社会科学としての医学(医療システム、福祉医療、医療経済学)があり、その特徴を理解する。医療においては、医師、看護師、コメディカルのチーム医療により質の高い医療行為がおこなわれ、さらに健康教育も実践し、予防におい手も重要な役割を演じていることを学ぶ。また医学の進歩と病気の成り立ちを理解する。本科目は、専門教育科目の関連科目に区分されている。管理栄養士養成施設のカリキュラムには、専門基礎分野の教育内容の一つとして「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」の規定があり、本科目は当該分野の一つとして位置づけられている。		
授業の内容	前半は医学の本質ならびにそれがどのような方向に発展しつつあるかを学習する。そのためには、医学全般の進歩の歴史を理解し、生物としての人間の疾病像、悩む人格体としての人間のすがた、さらに医学がどのように社会に受け入れられているか、今後の医学の進むべき方向について講義をする。これまでの医学の歩みの輝かしい成果のみでなく、様々な問題点についても学習する。また健康、病気、医学の体系について理解し、病気の原因、病気による身体の変化、病気の診断についても学習する。		
成績評価の方法	成績は、期末試験、課題レポートで評価する。試験は、講義内容に関する論述問題を作成し試問する。		
テキスト	栄養科学イラストレイテッド「解剖生理学」 羊土社		
参考文献	平井良則 編「医療学総論」金原出版 2002。 伏木信次 編「生命倫理と医療倫理」金芳堂2014 栄養科学イラストレイテッド「分子栄養学」2017		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	履修予定者は、自然科学の一分野である医学に関して、自主的に関心を持つように心がけ、医学(医療)のあるべき姿を考えてほしい。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 病理医として5年、臨床医(内科医)として25年の経験を持つ教員が、臨床医学全般に関し、ケーススタディと共に、系統的講義を行う。 解剖学・病理学など基礎医学と臨床との関連性を重視した内容である。		
授業計画	準備学習		
第1回	第1章 医学をどのようにとらえるか A.「医学概論」でなにを学ぶか、 B.医学とは何か 1. 医学の定義	教科書医学概論 P1-6	
第2回	B.医学とは何か 2. 医道 3. サイエンスとアート 4. 医療	教科書医学概論 P6-12	
第3回	c 人間の生命を考える 1. 生とはなにか 2 ライフサイエンスの発展	教科書医学概論 P12-1 5	
第4回		教科書医学概論 P1 5-1 9	
第5回	D. 病気と医学 1. 病気と人間 2. 病気と 医学・看護	教科書入門人体解剖学 P18-24	
第6回	第2章 医学の発達のすがた 医学史1. 医学の起源 2. 古代の医学	教科書医学概論 P24-27	
第7回	3. 中世の医学	教科書医学概論 P28-30	
第8回	4. 近代の医学	教科書医学概論 P30-36	
第9回	5. 20世紀の医学1-3	教科書医学概論 P37 -41	
第10回	5. 20世紀の医学4-7	教科書医学概論 P41-45	
第11回	6. わが国における医学の発達のすがた	教科書医学概論 P45-50	

第12回	第3章 健康・病気・医学の体系 I 健康とは 2. 健康に対する個人と社会の責任 3. 病気の理解と分類 4. 病気と心のはたらき	教科書医学概論 P50-54
第13回	5. 医学の体系 一分化と統合	教科書医学概論 P54-58
第14回	第4章 病気の原因 A 病理学とは B. 1. 病気の内因	教科書医学概論 P58-63
第15回	第4章 病気の原因 A 病理学とは B. 1. 病気の内因	教科書医学概論 P63-71
第16回		
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	技術マネジメント論		
担当教員氏名	魚谷 滋己		
研究室の場所			
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィシアワー			
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って講義形式で進めるが、適宜、全4回の宿題(レポート提出)を課し、次回の講義の開始時に提出。レポート内容と実際の企業での実践例を基にした討議を適宜実施する。学生は、授業に出席し、宿題のレポートを作成・提出すること、討議に参画することが義務付けられる。		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営学科, 経営情報学科 3年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	MOT,製品開発マネジメント、製品戦略、製品戦略策定プロセス、製品開発、製品開発プロセス、製品開発組織		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目では、技術経営(MOT)の基本的な概念・考え方を修得し、技術経営において基本的に抑えるべき視点を理解する事を目標とする。		
授業の内容	「製品開発」は企業競争力の源泉である。一方で、失敗するとリスクは甚大となる。そのマネジメントは企業経営そのものと言っても過言ではない。製品開発の上位にある製品戦略も含め技術経営の構成要素について、その基本的内容を解説し、自動車製造企業の実例を紹介しながら、企業の存続～成長には何が必要かを、受講生を中心とした討議を通して考察する。更に、仕上げとして、実際の企業見学を通じて、考察した内容につき技術経営の視点から受講生自ら確認する。		
成績評価の方法	授業期間を通して、適宜、合計4回のレポート提出を課す。また、講義の節目に5回程度、集中討議を実施する。評価は、レポート内容(70%)と、討議への参画度合・討議内容・積極性(30%)とで総合評価する。		
テキスト			
参考文献	延岡健太郎「製品開発の知識」日経文庫 日本経済新聞出版社 延岡健太郎「MOT[技術経営]入門」 日本経済新聞出版社		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	授業内容の理解のため事前に参考文献(特に「製品開発の知識」日経文庫)を一読する事を推奨する。 企業見学の日程等については変更する事があります。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 広島所在の自動車製造企業に長年勤務した教員が、その実務経験を活かして、自動車業界を中心とした日本の製造業の製品・技術開発の戦略～マネジメントの実態、最近の課題について講義する。		
授業計画	準備学習		
第1回	イントロダクション(講義の目的と考え方・講義の構成と流れ) 製品開発マネジメント	「製品開発の知識」第I章の事前購読	
第2回	製品開発マネジメント～製品戦略	「製品開発の知識」第III章の事前購読	
第3回	製品戦略	第2回に課したアサインメント提出 (製品戦略についての考察)	
第4回	製品戦略(企業での事例紹介と討議)	事前準備不要	
第5回	製品アーキテクチャー	事前準備不要	
第6回	製品開発プロセス	第5回に課したアサインメント提出 「製品開発の知識」第IV章の事前購読	
第7回	製品開発組織のデザイン	「製品開発の知識」第V章の事前購読	
第8回	製品開発プロセス～組織(企業での事例紹介と討議)	事前準備不要	
第9回	製品開発プロセスのマネジメント	「製品開発の知識」第VI章の事前購読	
第10回	自動車の商品開発事例とMOT	事前準備不要	
第11回	講義全体のまとめ。企業見学についての説明。	「製品開発の知識」第VII～VIII章の事前購読	
第12回	企業見学	事前準備不要	
第13回	企業見学	事前準備不要	
第14回	企業見学	事前準備不要	
第15回	まとめと総合討議	第11回～14回の企業見学でのアサインメント提出 (企業見学を終えての考察)	

第16回	
授業計画	
シラバス備考	
URLリンク1	
URLリンク2	
URLリンク3	

授業科目名	視覚情報処理論		
担当教員氏名	肖 業貴		
研究室の場所	広島キャンパス 1563研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィシアワー	毎週月曜日9時から金曜日18時(在室のときはいつでも可), 場所は担当教員研究室		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って, 主に下記の教科書・参考書および別途配布するプリント資料を用いて実施する。		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 選択
履修要件	経営情報学科 2年次対象		
免許等指定科目	高一種免(情報)選択		
キーワード	視覚情報処理, デジタル画像, 画像処理, 静止画, 動画, 3原色原理, カラー画像, 画像圧縮, Biometrics, 顔画像の処理, Matlab Programming		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目は, 情報化において映像情報の活用が欠かせない現状を踏まえて, 情報科学の重要な分野として, 視覚情報処理・画像処理の基礎, 特にデジタル画像に関する基礎知識を習得させるために実施するものである。デジタル画像の基礎知識を習得させるとともに, 演習を通して画像処理の基本技法を体験する。		
授業の内容	視覚情報は, 人間が処理・利用する最も大事な情報の一つである。その形成, 処理, 応用に関する研究開発が近年大きく進展し, 特に知能的マンマシンインタフェースにおいては極めて重要なものである。本講義では, まず生物の視覚情報処理の基礎を紹介し, 画像による視覚情報処理モデルについて述べる。次に, デジタル画像の形成と処理の基本技法を詳述する。最後に, デジタル画像処理の最新応用として, 近年注目されている顔識別(Biometrics)による個人認証セキュリティー技術について述べる。		
成績評価の方法	4回以上の欠席は評価の対象外とする。演習課題と期末試験は60%, 演習への取り組みは40%の割合で, 出席状況も考慮して, 総合的に評価する。各課題の提出期限は, 通常, 次回授業時間の開始時とする。課題の提出方法等については, 授業時間内に指示する。		
テキスト	特に指定しないが, 授業中にプリントをまめに配布する。		
参考文献	参考書: 酒井『デジタル画像処理入門』コロナ社, 1997。平井『視覚と記憶の情報処理』倍風館, 1995。藤岡 他『画像処理の基礎』昭晃堂, 2002。田村『コンピュータ画像処理』オーム社, 2002。谷口『画像処理工学』共立出版, 1996。鳥脇『パターン認識と画像処理』朝倉書店, 1997。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	【実務経験を活かした実践的な教育について】 大学教員になる前にIT業界で情報システムの開発に従事していた。特にコンピュータ配電自動化システムの開発プロジェクトに参加し, 機能設計, プログラム設計, 試験設計等に加え, プログラム作成や現地試験にも参加した。教員になってからも幾度も企業との共同研究開発を長年にわたって行った。そういった実務経験を授業に活かすためには, 画像処理理論のみならずその実応用における活用現状, あり方, 利用拡大の可能性等についても言及し, 多くの実例や例題を通して学生の興味や自ら考える・学ぶ姿勢を引き出しながら授業内容への理解の深化を図ることになっている。		

授業計画	準備学習	
第1回	①授業計画の説明、②序論: 人と計算機はどう違うか? なぜ人の情報処理を解明する必要があるか?	参考書などを読んで講義内容を予習しておくこと
第2回	脳における情報処理: ①大脳皮質における情報処理、②神経細胞の構造・機能、③神経インパルスの発生と伝達	参考書などを読んで講義内容を予習しておくこと
第3回	①視覚情報処理の流れ、②網膜における情報処理、③受光細胞、④双極細胞、⑤神経細胞、⑥V1野における初期視覚情報処理、⑥V2, V4, MT, MSTでの情報処理	参考書などを読んで講義内容を予習しておくこと
第4回	①デジタル画像処理の歴史、②デジタル画像処理の応用分野、③デジタル画像処理の基本課題	参考書などを読んで講義内容を予習しておくこと
第5回	デジタル画像の基礎(1): ①デジタル画像の生成(空間サンプリング、量子化)、②画像の空間解像度、③輝度分解能	参考書などを読んで講義内容を予習しておくこと
第6回	デジタル画像の基礎(2): ①色彩の基本、②3原色原理、③カラー画像	参考書などを読んで講義内容を予習しておくこと
第7回	画像の基本処理(1): ①画像の拡大・縮小、②画像の回転、③画像の濃度変換	参考書などを読んで講義内容を予習しておくこと
第8回	画像の基本処理(2): ①空間フィルタリング手法、②平滑化フィルタ、③特徴抽出フィルタ、④鮮鋭化フィルタ	参考書などを読んで講義内容を予習しておくこと
	静止画の圧縮: ①情報保存型圧縮(Huffman coding, ARによるPredictive coding)、②情報非保存型圧縮(直交変換2-D)	

第9回	DCTなどを用いた圧縮、ベクトル量子化による圧縮 (Vector quantization (VQ))	参考書などを読んで講義内容を予習しておくこと
第10回	動画の圧縮: 動きベクトルの検出 (Motion estimation) による圧縮	参考書などを読んで講義内容を予習しておくこと
第11回	画像処理演習 (Matlab使用) 準備: ①Matlabのコマンド、②Matlabプログラム形式、③Matlabでの画像読み込みと書き込み	参考書などを読んで講義内容を予習しておくこと
第12回	画像処理演習 (1): デジタル画像の拡大・縮小 (プログラム作成と処理画像による確認)	参考書などを読んで講義内容を予習しておくこと
第13回	画像処理演習 (2): デジタル画像のフィルタリング (エッジ検出プログラムの作成とエッジ画像による確認)	参考書などを読んで講義内容を予習しておくこと
第14回	画像処理演習 (3): 静止画の圧縮 (2-D DCTを用いた圧縮と画質の確認)	参考書などを読んで講義内容を予習しておくこと
第15回	① (時間があれば) 顔画像による個人識別の技術、②授業統括 (予備日)	参考書などを読んで講義内容を予習しておくこと
第16回	期末試験	講義内容を復習し、試験に備えること
授業計画		
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

2019/07/17(水)10:24

授業科目名	フィールド科学		
担当教員氏名	荻田 信二郎, 入船 浩平, 福永 健二, 甲村 浩之, 西村 和之, 吉野 智之, 村田 和賀代		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	随時		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	対面授業およびアクティブラーニング形式。教科書は特に定めない。オムニバス形式。授業内容に関連のある本学の教員, または, 関連する地域専門家, 行政担当者等による講義。さらに, 地域に関連したテーマでグループによる調査, レポートを課す予定である。		
単位数(時間数)	2.0	30	学科または専攻毎の必修・選択の別 学生便覧参照
履修要件	生命科学科, 環境科学科 1年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	フィールド, 中山間地域, 地域振興, 地域資源, 地域自然, 食文化, 環境保全, 6次産業		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>授業の目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.地域(特に備北地域)の自然, 文化, 環境保全, 産業についての概要を説明できる。 2.地域の課題について, その解決に向けて主体的に取組み, 地域の理解を図り, 自らの得た知識や課題について必要な技法(文献探索, 調査法, データ分析, PCによるプレゼンやレポート作成)を用いて説明ができる。 <p>カリキュラムとの関連フィールド科学教育分野の基幹科目であり, 入門的内容である。 次年度配当のフィールド科学実習で取り上げる実習内容の基礎を学び, 実習に直接繋がる授業である。</p>		
授業の内容	前半は, 大学が立地している備北地域の理解を目的にしている。地域の文化, 食品, 環境保全に関する実践的な取り組みについて, 専門の本学教員および外部講師による講義を行う。なお, 外部講師の都合により, 日程および内容については変更の可能性がある。途中の5回程度は, グループ毎に実際のフィールドに出て必要な技法をもちいて情報収集, 分析し, その結果をプレゼン等により発表する。		
成績評価の方法	原則として前半講義に関しては, 毎回簡単なレポートを講義時間内(15~20分程度)に作成し講義終了時に提出する。途中のフィールド実践実習に関しては, 別途レポート等を課す。 レポート(場合によってはプレゼンテーション)および出席で評価を行う。		
テキスト	教科書は定めない。講師によってはプリント資料を配付する。参考文献等は, 随時, 紹介する。		
参考文献	講義の中で随時紹介する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	<p>日頃より地域の自然に親しみ, 地域の文化や社会状況に関心を持つこと。 地域との交流事業などに積極的に参加し, 地域理解に努めること。 講義には積極的に参加すること。 2年次配当のフィールド科学実習の履修には, 本講義の単位修得が必須である。 遅刻は, 厳禁であり, 減点の対象とする。 講義中に講義とは無関係の私物を使用する等の場合は厳しく対処する。</p> <p>【実務経験を活かした実践的な教育について】 地域課題の解決にかかる研究を実施している本学の教員, または, 関連する地域の専門家, 行政担当者等による講義を行う。また, 実際に地域の課題に関連している専門家やその場所をグループで訪問調査し, プレゼンテーションを行うことで課題内容の理解を深める。これにより, 地域課題解決の実践力をつけるための基礎を指導する。</p>		
授業計画	準備学習		
第1回	ガイダンス(フィールド科学教育研究センター長)	シラバス, コースカタログを熟読し, どういう科目なのかを理解して初回に臨むこと。	
第2回	生命環境学部教員と地域との共同研究などの紹介	ホームページで, 学部教員の地域連携についてみておくこと。	
第3回	食や6次産業に関する内容	6次産業とは何か, インターネットなどで調べてくること。	
第4回	公的試験所等の施設や活動内容の紹介	広島県の研究所について調べてくること。	
第5回	食品加工に関する内容	広島県ではどのような食品が特産になっているか調べてくること。	
第6回	自然環境に関する内容	広島県の自然遺産について調べてくること。	
第7回	フィールド実践実習(グループワーク)	庄原の名所などについて調べてくること。	

第8回	フィールド実践実習(グループワーク)	割り当てられた課題について調べてくること。
第9回	フィールド実践実習(グループワーク)	訪問先について調べてくること。
第10回	フィールド実践実習(グループワーク)	訪問先について調べてくること。
第11回	フィールド実践実習(グループワーク)	訪問先について調べてくること。
第12回	備北の文化について	備北地域にどんな文化があるのか調べてくること。
第13回	フィールド実践実習(グループワーク)	レポート作成のこと。各班プレゼンの準備をしてくること。
第14回	6次産業化に関する地域行政の施策について	6次産業を進めるために行政はどのようなことをしているだろうか？考えてみよう。
第15回	フィールド科学実習に向けて まとめ	フィールド科学実習はどういうことをやっているのか、本学のホームページで見よう。
第16回		
授業計画		
シラバス備考	本講義は、外部講師によるオムニバス形式を主としたものであるため、講師の人選や講義の詳細な内容、また、日程については年度途中で確定することになるので、上記の授業計画については変更となる場合がある。	
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	基礎看護実習 I		
担当教員氏名	青井聡美, 吉田和美, 池田ひろみ, 三宅 由希子, 辻川季巳栄 他		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	随時(要予約)		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	臨地実習(県立広島病院、三原赤十字病院)		
単位数(時間数)	1.0	45	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	看護学科1年次対象		
免許等指定科目	看護師・保健師国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	看護の役割・機能, 医療施設の役割, コミュニケーション, 健康障がい, 社会生活		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	患者およびその家族の受診行動につき添うことや入院し治療を受けている患者・家族と接することによって、それぞれのおかれた状況を知り、健康障がいやどのように心理状態や社会生活に影響を及ぼしているのかを学ぶ。また、医療施設の役割および看護専門職者の機能を学ぶ。1年次の早い時期に学生が看護の様々な活動を見たり体験することによって、看護の役割を知ると同時に、看護職の魅力を感じるによって後期の授業に対する意欲へと繋がるように位置づけている。		
授業の内容	<ol style="list-style-type: none"> 1) 通院・入院患者、およびその家族との援助的人間関係の実際を説明できる。 2) 通院・入院患者、およびその家族と関わりを通して、健康障がいによって生じた社会生活や気持ちの変化を説明できる。 3) 患者・家族に対する日常生活援助の見学を通して、患者に適した看護の必要性を説明できる。 4) 通院患者・家族の受診行動および入院患者の治療・看護の見学を通して、病院の役割・機能、病室の環境について説明できる。 5) 看護を学ぶ者として、倫理的に行動できる。 6) 看護を目指す初学者として、適切な姿勢・態度で行動できる。 		
成績評価の方法	目標への到達度(75%)、レポート(20%)、実習態度(10%)とする。		
テキスト	臨地実習要綱, 基礎看護実習 I 実習要綱, 日常生活援助方法論 I・看護概論の授業ノート・配布資料等		
参考文献			
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	【実務経験を活かした実践的な教育について】看護師経験のある教員が臨地において病棟看護師と連携し看護実践の指導を行う。 看護学概論, 日常生活援助方法論 I で学習した内容を復習して実習に臨むこと。また、実習日数が不足した場合は記録の提出にかかわらず再履修となるので、健康管理には十分留意すること。実習後の提出物については、提出期限を厳守すること。(＊期日を過ぎた場合は受理しない)		

授業計画	準備学習
第1回	第1回オリエンテーション実習目的, 内容, 注意事項等の説明 平成31年度入学生用実習要綱, 平成31年度基礎看護実習 I 実習要綱を持参すること
第2回	第2回オリエンテーション実習病院・病棟の説明, 具体的注意事項等 事前課題を提出すること
第3回	病院実習第1日目①病院, 病棟オリエンテーション: 病院概要・看護部理念, 組織, 各部署・専門職種からの説明および見学など②病院内各部署の見学③実習病棟, 外来のオリエンテーション 行動計画を立案し, 目的, 目標を明確にして臨むこと
第4回	病院実習第2日目: 病棟実習と外来実習に分かれて実習する 行動計画を立案し, 目的, 目標を明確にし臨むこと
第5回	病院実習第3日目: 病棟実習と外来実習に分かれて実習する 行動計画を立案し, 目的, 目標を明確にし臨むこと
第6回	基礎看護実習 I のまとめ 「実習記録」を記載し提出すること
第7回	
第8回	
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	
第13回	

第14回		
第15回		
第16回		
授業計画	基礎看護実習 I 実習要綱参照	
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	基礎臨床実習 I		
担当教員氏名	梅井凡子, 田中聡, 小野武也, 金井秀作, 島谷康司, 長谷川正哉, 積山和加子, 岡村和典, 金指美帆, 佐藤勇太, 高宮尚美, (未定)		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	面談はともに要予約。		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	実習施設の臨床実習指導者の下での臨床実習		
単位数(時間数)	2.0	90	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	理学療法学科2年次対象		
免許等指定科目	理学療法士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	総合リハビリテーション, 医学的リハビリテーション, リハビリテーション医学, チーム医療, 理学療法士, 運動療法, 物理療法		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	基礎臨床実習 I では, 医療現場における理学療法の位置付けと理学療法業務の概要を実際の臨床場面を見学させることによって把握させる。また, 実習指導者の指導・監督の下で, 患者とのコミュニケーションを図ったり, 患者の移動を補助的に行ったりすることで医療人としての責任感の育成や動機付けの向上を目指す。		
授業の内容	実習施設にて2週間, 実習指導者の下で実習をする。 以下の内容を実習目標とする。 1)実習施設の概要を理解する。2)他の医療職の臨床を見学し, 理学療法部門を含めたチーム医療としての各部門の位置付けを理解する。3)処方から退院までの理学療法業務の流れを理解する。4)情報収集の実践を行い, 処方箋, カルテの読み方から問診の取り方, 関節可動域測定法などを理解する。5)実習指導者の指導や他部門からの情報収集, 患者への問診などを通じ医療人としての適切な倫理観と態度を身に付ける。		
成績評価の方法	実習指導者の評価と出席状況, 実習後に課す実習レポートの提出と内容によって総合的に評価する。無断欠席を行うとその時点で実習が中止になることがある。正当な理由なく欠席が実習日数の1/5を超えた場合は, 評価の対象とみなさない。		
テキスト	鶴見隆正編『標準理学療法学・臨床実習とケーススタディー・第2版』(医学書院)		
参考文献	実習地での経験に応じ, 各自が他の教科の教科書や参考文献を用意すること。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	【実務経験を活かした実践的な教育について】 理学療法士として必要な基礎的能力を身に付けるため, 理学療法の臨床現場において実際に理学療法を実施している場を医療機関にて見学する。理学療法士としての経験が5年以上である実習指導者の指導の下, 対象者からの情報収集を経験する。		

授業計画	準備学習
第1回	基礎臨床実習 I では, 医療現場における理学療法の位置付けと理学療法業務の概要を, 実際の臨床場面を見学させることによって把握させる。また, 実習指導者の指導・監督の下で, 患者とのコミュニケーションを図ったり, 患者の移動を補助的に行ったりすることで, 医療人としての責任感の育成や動機付けの向上を目指す。
第2回	
第3回	
第4回	
第5回	
第6回	
第7回	
第8回	
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	
第13回	
第14回	
第15回	

県立広島大学ポータルサイト

第16回	
授業計画	
シラバス備考	
URLリンク1	
URLリンク2	
URLリンク3	

2019/06/12(水)10:04

授業科目名	総合臨床実習 I (作業)		
担当教員氏名	吉岡和哉, 久野真矢, 小池好久, 織田靖史, 西田征治, 吉川ひろみ, 古山千佳子, 高木雅之, 山西葉子, 永吉美香		
研究室の場所	吉岡:2508研究室		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	随時		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	臨床実習施設における臨床実習. 作業療法士の臨床実習指導者の下で9週間の臨床実習を行う.		
単位数(時間数)	9.0	405	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	作業療法学科4年次対象		
免許等指定科目	作業療法士国家試験の受験資格に係る必修科目		
キーワード	臨床実習, 作業療法評価, 作業療法治療計画立案, 作業療法実施経験		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>【学生の到達目標】</p> <p>今まで学んだ知識および技術を総合臨床実習指導者のもと実際に指導を受けながら経験することができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 作業療法士として適切な態度をとることができる。 2. 担当クライアントとそれを取り巻く医療的環境及び背景にある生活環境を理解することができる。 3. 基本的な作業療法過程を指導のもと経験することができる。 4. 保健・医療・福祉チームの役割と機能を理解し、チームの一員としての責任や役割を知ることができる。 <p>【カリキュラム上の位置付け】</p> <p>「専門領域特有の科目」の「臨床実習」に位置する。</p>		
授業の内容	総合臨床実習指導者の指導のもとに作業療法評価, 作業療法治療計画立案, 作業療法実施, 再評価を経験する。また、臨床において作業療法士として医療現場で専門職としての振る舞いや、対象者に対してどのように対応するのか、作業療法を対象者に合わせて実施するのか、多職種とのチーム連携・協力について体験する。		
成績評価の方法	実習中の態度、内容(提出物含)を6割、セミナーの参加態度・報告内容を4割として総合的に評価する。		
テキスト	田端, 谷口, 山崎(編):臨床精神科作業療法入門. 文光堂, 東京, 2015 吉川 ひろみ, 齋藤 さわ子 (著):作業療法がわかる COPM・AMPS実践ガイド. 医学書院, 東京, 2014		
参考文献	日本作業療法士協会: ①「作業療法臨床実習の手引き」(2018), ②「養成教育および臨床実習での学生に対するハラスメント予防」, 必要な参考文献は随時紹介する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	<p>実習施設では職員の一員という心構えで臨むことと社会人としての対応に逸脱がないよう真摯に実習に取り組むことが必要です。</p> <p>実習中は、守秘義務を遵守してください。また、自己の健康管理に十分に配慮することも必要となります。</p> <p>何かあった場合には、施設担当教員または科目担当教員に連絡を取ってください。</p> <p>※実習の領域は1期2期で合わせて検討し調整を行い配置決めをしている。</p> <p>【実務経験を活かした実践的な教育について】</p> <p>学外の臨床実習施設において作業療法士としての実務経験が5年以上の実習指導者のもとで安全に配慮し、作業療法業務(面接, 評価, 治療, 成果検討)の一部を見学, 模倣, 実施する。</p>		
授業計画	準備学習		
第1回			
第2回			
第3回			
第4回			
第5回			
第6回			
第7回			
第8回			
第9回			
第10回			
第11回			

第12回		
第13回		
第14回		
第15回		
第16回		
授業計画	実習実施期間:9週間 ※実習前のオリエンテーションやガイダンス, 実習後のセミナー発表等実習に関わる授業枠も実習の一環のため必ず全員参加してください。 実習期間中は, 実習先に勤務体系に合わせて実習を行い, 1事例, 臨床実習指導者とともに担当し症例報告(レジュメ)にまとめること。	
シラバス備考		
URLリンク1		
URLリンク2		
URLリンク3		

授業科目名	臨床実習Ⅲ		
担当教員氏名	小澤 由嗣 ほか		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	各担当教員と要予約		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	集中実習		
単位数(時間数)	4.0	160	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	コミュニケーション障害学科4年次対象		
免許等指定科目	言語聴覚士国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	言語聴覚療法、言語聴覚士の役割、臨床体験、チームアプローチ		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	臨床実習Ⅰ・Ⅱで学んだコミュニケーション障害の臨床に関する知識や技能を臨床のなかで実践し、応用するための総合的な能力を身につけることを目標とする。コミュニケーション障害をもつ人を、一人の人として全人的にとらえ対応する能力を身につける。コミュニケーション障害の臨床や関連する領域の臨床業務を理解し、保健・福祉・医療を担う一員としての言語聴覚士の機能や役割を認識し、コミュニケーション障害の臨床を行う能力を身につける。		
授業の内容	本学学内の附属診療センターおよび学外の種類の異なる医療施設や福祉施設において、実習指導者の指導監督のもとに、コミュニケーション障害に対する臨床の実際の流れを学ぶ。すなわち、特定の実習協力患者を一定期間担当し、そのコミュニケーション障害の評価・診断、指導目標の設定、訓練計画の立案と日々の指導プログラムの実施と改良、指導記録の作成といった一連の作業、さらに関連職種との連携やチーム・アプローチの実際を通して、言語聴覚士としての具体的な臨床業務を学ぶ。		
成績評価の方法	実習指導者の報告、実習レポート、実習報告会の発表等により総合的に評価する。		
テキスト	実習指導者の指示に従う。		
参考文献			
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	臨床実習の総まとめとして、能動的に学習してほしい。出席日数が不足した場合は単位認定ができないため、健康管理に注意してほしい。 【実務経験を活かした実践的な教育について】 言語聴覚士としての実務経験を有する教員および学外医療福祉施設指導者が担当中のケースを対象とした臨床実習(見学、検査、評価、訓練計画立案、訓練実施)を計画し、言語聴覚療法の実際について学修する。		

授業計画	準備学習
第1回	事前開催する臨床実習オリエンテーションにおいて、実習に対する心構え、見学に必要な機器の操作方法、準備学修内容について説明する。
第2回	
第3回	
第4回	
第5回	
第6回	
第7回	
第8回	
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	
第13回	
第14回	
第15回	
第16回	
授業計画	臨床実習に関する資料を配布し、講義および演習によるオリエンテーションを行ったうえで、学内実習、学外実習を実施する。コミュニケーション障害学科「臨床実習の手引き」参照。 準備学習については、各実習指導者の指示を仰ぐこと。

県立広島大学ポータルサイト

シラバス備考	
URLリンク1	
URLリンク2	
URLリンク3	

授業科目名	社会福祉実習 I		
担当教員氏名	伊藤 泰三、李 宣英、國定 美香、志賀 信夫、住居 広土、田中 聡子、手島 洋、永野 なおみ、松宮 透高、湯川 順子、横須賀 俊司、吉田 倫子		
研究室の場所	学生便覧参照		
連絡先電話番号	学生便覧参照		
オフィスアワー	各担当教員に確認のこと		
E-mail/HP	学生便覧参照		
授業の形式・方式	集中実習		
単位数(時間数)	2.0	60	学科または専攻毎の必修・選択の別 必修
履修要件	人間福祉学科2年次対象 社会福祉実習指導Ⅱにおいて実施される中間試験に合格すること。		
免許等指定科目	社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験資格に係る必修科目		
キーワード	社会福祉士、配属実習、相談援助		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	①相談援助に係る知識と技術について具体的・实际的に理解し、実践的な技術等を体得すること、②社会福祉士として求められる資質・技能・倫理や、自己に求められる課題把握等を総合的に対応できる能力を習得すること、③関連分野の専門職との連携について実践的に理解すること、の以上3点を目標とする。 カリキュラム上の位置け: 専門領域特有の科目(社会福祉士専門科目群)		
授業の内容	社会福祉実習施設において、60時間以上の配属実習を行う。社会福祉実習を通して、実習日誌(記録)を作成、実習課題の達成度を測る自己評価を行なう。また、実習指導者および実習指導担当教員から個別指導を受ける。具体的個別指導を以下に記す:①利用者や関係者等とのコミュニケーション等円滑な人間関係の形成、さらに援助関係の形成、②利用者理解とその需要の把握及び支援計画作成について、③利用者や関係者への権利擁護及び支援とその評価、④支援におけるチームアプローチの実際、⑤社会福祉士としての職業倫理、組織の一員としての役割と責任への理解、⑥施設・事業者・団体等の経営やサービスの管理運営の実際、⑦当該実習先が地域社会の中の施設であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけの方法、社会資源の活用・調整・開発に関する理解		
成績評価の方法	実習指導者による評価、学生の自己評価、実習担当教員による評価に基づき総合的に判断する		
テキスト	相談援助実習研究会編「はじめての相談援助実習」ミネルヴァ書房 「県立広島大学 社会福祉実習の手引」		
参考文献	グループごとに、担当教員より紹介する。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	【実務経験を活かした実践的な教育について】 社会福祉士に必要な能力を身に付けるため、社会福祉の実践現場において、実習指導者の指導の下、支援の実際を経験する。実習指導者は、社会福祉士の資格取得後3年以上相談援助業務に従事した経験のある者であって、厚生労働大臣が別に定める基準を満たす講習会の課程を修了したものである。		

授業計画	準備学習
第1回	
第2回	
第3回	
第4回	
第5回	
第6回	
第7回	
第8回	
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	
第13回	
第14回	
第15回	

第16回	
授業計画	<p>社会福祉実習を通して、実習日誌を作成し、実習課題の達成度を測る自己評価を行う。また、実習指導者及び実習指導担当教員から個別指導を受ける。具体的個別指導は以下のとおり。①利用者や関係者等とのコミュニケーション等円滑な人間関係の形成、さらに援助関係の形成。②利用者理解とその需要の把握及び支援計画作成について。③利用者や関係者への権利擁護及び支援とその評価。④支援におけるチームアプローチの実際。⑤社会福祉士としての職業倫理、組織の一員としての役割と責任への理解。⑥施設・事業者・団体等の経営やサービスの運営管理、⑦当該実習先が地域社会の中の施設であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけの方法、社会資源の活用・調整・開発に関する理解</p>
シラバス備考	<p>実習期間中に、おおよそ1週間に1度教員による巡回指導,または帰校指導を実施する。</p>
URLリンク1	
URLリンク2	
URLリンク3	